



国際交流基金

令和元(2019)年度 年報

THE JAPAN FOUNDATION

2019 - 2020

日本の友人をふやし、世界との絆をはぐくむ

国際交流基金は、「文化」と「言語」と「対話」を通じて日本と世界をつなぐ場をつくり、人々の間に共感や信頼、好意をはぐくんでいきます。

独立行政法人国際交流基金（JF）は、世界の全地域において、総合的に国際文化交流事業を実施する日本で唯一の専門機関です。「文化芸術交流」、「海外における日本語教育」、「日本研究・知的交流」の三つの分野を柱として、本部、京都支部、二つの附属機関（日本語国際センター及び関西国際センター）、さらに25の海外事務所（うち二つはアジアセンター連絡事務所）をベースに活動しています。世界と日本の人々が、お互いの理解と絆を一層深められるよう、さまざまな交流をつくり出していきます。

海外における日本語教育

海外の人たちに日本語を知ってもらうことは、日本への親しみや理解を広げるきっかけとなります。世界中で多くの人に日本語を学んでもらえるよう、各国の日本語学習環境の整備を進めています。



文化

文化芸術交流


海外の異なる文化や芸術に触れる感動は、言語の違いを越えて、相手への興味と共感を生み出します。日本の文化・芸術を幅広く世界に紹介し、人々の心の距離を近づけます。



言語

FIELDS

国際交流基金は、「文化芸術交流」、「海外における日本語教育」、「日本研究・知的交流」の三つのフィールドで事業を展開しています。



対話

日本研究・知的交流

海外での日本研究を支援することは、深い相互理解へとつながります。また、世界共通の課題についてのシンポジウムや共同プロジェクトを通じ、有識者同士の交流を促進します。

HISTORY

国際交流基金（The Japan Foundation）設立

日本語能力試験開始

1972

1973

1984

国際交流基金賞創設

国際交流基金は、展覧会や舞台公演、国際会議、海外の文化人の招へいなど、文化交流が行われるための機会を自ら創出し、実現しています。

文化交流のために活動する人々に、資金の一部を提供したり、多くの人の活動を容易にするツール、機会や場所を提供する等、文化交流活動を側面から支えます。

ORGANIZE

企画する・主催する

SUPPORT

助成する・支援する

APPROACHES

国際交流基金は、文化の各分野で活動する人々が何を必要としているのかを見極め、いかに良い環境を提供できるかを考えます。機会を創出し、活動をサポートし、継続的な交流が可能となるような環境づくりを行います。

NETWORK・ INFORMATION

ネットワークをつくる・
交流の土台をつくる

文化交流活動を行う人にとって必要な情報や素材を収集したり、人と人とのネットワークをつくるなど、国際文化交流の土台づくりとすそ野の拡大を継続的に行っています。

独立行政法人国際交流基金となる

アセアン文化センターから旧アジアセンターへ改組（～2004）

アセアン文化センター開設

アジアセンター設置

1989

1991

1997

2006

1990

1995

2003

2014

日本語国際センター（埼玉県）設置

日米センター（Center for Global Partnership）設置

関西国際センター（大阪府）設置

日中交流センター設置

国際交流基金

令和元年(2019)年度年報

Contents

- P1 国際交流基金の概要
- P4 理事長からのごあいさつ
- P5 「Japan 2019」
- P7 「響きあうアジア2019」
- P9 PICK UP FY2019

国際交流基金の事業

- P11 文化 [文化芸術交流]
- P15 言語 [海外における日本語教育]
- P19 対話 [日本研究・知的交流]
- P23 アジアセンター
- P26 その他の取り組み

資料編

事業実績

- P27 文化芸術交流
- P28 海外における日本語教育
- P29 日本研究・知的交流
- P30 アジア文化交流強化事業

- P31 民間からの資金協力
- P33 財務諸表
- P36 世界の拠点紹介
- P37 諮問委員会等/組織図
- P38 ご案内

理事長からのごあいさつ

このたび、2020年10月に国際交流基金理事長に就任いたしました。

1972年の設立以来、これまで半世紀近くにわたり国際文化外交の中心的な機関としての役割を担ってきた法人の長を務めることができるのは、私にとって大きな喜びであり、またその責任に心が引き締まる思いがいたします。

私は、1977年に外務省に入省して以来、さまざまな分野や地域と関わってまいりましたが、大使として赴いたスイスやイタリアでは、両国との国交150周年を記念する事業やミラノ万博をはじめ、数多くの文化・芸術イベントの企画や実施に直接携わる中で、日本の優れた文化・芸術が多くの人たちに大きな喜びや感動を与え、それが日本に対する敬愛の気持ちを増進し、ひいては日本外交にとり大きな資産となっていくことを現場で目撃することができました。

また、公務員としての最後の仕事は、環太平洋経済連携協定(TPP)の首席交渉官として、関係11か国の交渉に関与いたしました。米国が離脱を表明し、TPPの先行きが不透明となる中で、交渉は困難なものとなりましたが、最終的に合意に至ることができたのは、関係国の間で日本に対する信頼感があったからこそであると思っています。この信頼感は、単に日本の経済規模が大きいからということではなく、日本の持つ長い歴史と文化、高い技術力といったものに対する敬意に裏打ちされたものであると確信しています。

国際交流基金は、文化芸術、日本語教育、日本研究・知的交流の3つの事業を軸として、世界各国で日本のソフト・パワー外交を推進し、世界との絆を育む大きな力となってまいりました。

令和の時代の幕開けとなった2019年、国際交流基金は、重要地域・国との文化的なつながりの強化を図るため、日本と東南アジアの文化交流の祭典「響きあうアジア2019」と米国における「Japan 2019」の2つの大型文化事業を実施しました。

また、日本政府が新たに創設した在留資格「特定技能」による外国人材受け入れ拡大を受けて、海外における日本語教育の重要性がますます高まる中、日本での生活や就労の場面でのコミュニケーションに必要な日本語能力を測るテストとして、新たに「国際交流基金日本語基礎テスト(JFT-Basic)」を開発し、フィリピン、インドネシア、カンボジア、ネパール、モンゴル、ミャンマーにおいて実施いたしました。

あけて2020年。世界各地に広がった新型コロナウイルス感染症により、国を越えた人の移動や多人数の集まりを伴う多くの事業の実施を見合わせざるを得ない状況となり、国際交流基金の活動にも甚大な影響を及ぼしています。しかし、国と国との交流や連携が停滞しがちな現下の状況においてこそ、文化を通じた日本と世界のつながりを維持し、さらに発展させていくために、より積極的な取り組みが求められていると認識しています。

2022年の設立50周年という節目を視野に入れながら、国際交流基金は、オンラインでの文化交流事業の強化に取り組むなど、新たな国際環境、社会状況に適合した事業を積極的に展開してまいりたいと考えております。

引き続き皆様のご理解・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2020年10月

独立行政法人国際交流基金 理事長 梅本 和義





Japan 2019

フランスにおける日本文化・芸術の祭典「ジャポニスム 2018：響きあう魂」に引き続き、2019年3月から12月にかけて、今度は米国において日本の文化と芸術を紹介する「Japan 2019」を推進しました。ニューヨークとワシントン D.C. を中心に「公式企画」8件を実施したほか、全米各地でさまざまなイニシアティブにより計画された催し計138件を「参加企画」として認定しました。長年にわたる交流の積み重ねを踏まえ、日米両国の専門家らが力を合わせてつくりあげた質の高い展覧会や舞台公演は、見る人の心に深い感動を生みました。全企画の来場者総数は129万人を超えています。

公式企画：8件



「日本美術に見る動物の姿」展

5世紀の埴輪から今日の作品まで、絵画、彫刻、漆芸、陶芸、金工、七宝、木版画ほか300点以上の作品を通して、日本の文化や生活に深く関わってきた多彩な動物表現を紹介。ウォール・ストリート・ジャーナル紙による「2019年ベスト・アート」の1つに選ばれた。

期間 / 会場:

2019年6月2日～8月18日

ナショナル・ギャラリー・オブ・アート(ワシントンD.C.)

2019年9月22日～12月8日 ロサンゼルス・カウンティ美術館



『源氏物語』展 in NEW YORK ～紫式部、千年の時めき～

「Japan 2019」開幕を飾った企画展。書跡、画帖、絵巻物、掛軸、屏風等選りすぐりの135点(国宝2点、重要文化財9点含む)を通じ、源氏物語の世界を紹介。

期間:2019年3月5日～6月16日

会場:メトロポリタン美術館(ニューヨーク)



Photo by David Brichford; courtesy of the Cleveland Museum of Art

「神道：日本美術における神性の発見」展

平安～江戸時代の神道にまつわる絵画や彫刻、祭祀用面・装束等約125点(約20点の重要文化財含む)の逸品を展示。大型神道展が米国で開催されたのは43年ぶり。

期間:2019年4月9日～6月30日

会場:クリーブランド美術館(オハイオ州)



ジャパン・デーにおける公演

13回目を迎える年に一度の野外イベントにおいて、和楽器バンドやロック・ミュージシャン甲斐よしひろ氏等のミニ・ライブを実施。

日程: 2019年5月12日

会場: セントラル・パーク・バンドシェル・エリア(ニューヨーク)



ジャパン・ナイトにおける公演

ジャパン・デーの夜、「Japan Night HYDE & 和楽器バンド with スペシャル・パフォーマンス by 書家・紫舟 & 和楽器バンド」、「MISIA with スペシャル・ゲスト Puffy AmiYumi」のライブを実施。

日程: 2019年5月12日

会場: プレイステーション・シアター、ソニー・ホール(ニューヨーク)

宮城聡演出・SPAC『アンティゴネ』(右)

パーク・アベニュー・アーモリーが日本人演出家による舞台作品を初招へい。宮城聡演出・SPAC-静岡県舞台芸術センターによるギリシャ悲劇『アンティゴネ』を12回にわたって上演。タイム誌「2019年の優れた演劇」ベスト10に選ばれた。

期間: 2019年9月25日～10月6日

会場: パーク・アベニュー・アーモリー(ニューヨーク)

『杉本文案 曾根崎心中』(下)

世界最大の総合芸術施設、リンカーン・センターのホワイト・ライト・フェスティバルのオープニングに、『杉本文案 曾根崎心中』を米国初上演。

期間: 2019年10月19日～22日

会場: リンカーン・センター ローズ・シアター(ニューヨーク)



Photo: Stephanie Berger



© Yuji Ono



© 武内直子・PNP / "Pretty Guardian Sailor Moon" The Super Live 製作委員会

「全米桜祭り」における公演

米国首都の春恒例・全米桜祭りの開会で、川井郁子(バイオリン)&和楽器アンサンブル、望月ゆうさく(Mochi/映像・ジャグリング)、2.5次元ミュージカル“Pretty Guardian Sailor Moon” The Super Live を公演。

期間: 2019年3月22日～24日

会場: ワーナー劇場、フリーア美術館メイヤー講堂ほか(ワシントンD.C.)



ASIA IN RESONANCE

響きあうアジア 2019

国際交流基金アジアセンターは、2019年3月から12月にかけて、日本と東南アジアの文化交流事業を幅広く紹介する祭典として「響きあうアジア 2019」を国内外で開催しました。

国を越え共に創り上げた舞台芸術、映画から、東南アジア選手による混成サッカーチーム「ASIAN ELEVEN」と日本チームとの国際親善試合、日本語パートナーズのシンポジウムまで、お互いの文化が刺激しあって生まれたイベントの数々を実施。主たる計24件の事業だけでも、約2万人を動員し、報道件数は1350件にのびりました。

この祭典は、国際交流基金アジアセンターがそれまでの5年にわたり行ってきた相互交流の成果を振り返るとともに、日本と東南アジアとの関係をさらに深めるための起点となりました。



写真：藤本史昭

「響きあうアジア2019」ガラコンサート

ベトナム・タイ・フィリピン・インドネシア・ミャンマーの8つのオーケストラから約80名の演奏家を招き、日本の演奏家を交えて多国籍オーケストラを結成。指揮者に小林研一郎氏を迎え、熱気溢れるアジアの響きを奏でた。

日程：2019年7月1日 会場：東京芸術劇場 コンサートホール



Photo : Yosuke Kamiyama

DANCE DANCE ASIA—Crossing the Movements 東京公演 2019

アジア域内のダンサー、クリエイターの交流を促進し、新たな文化の創造を目指して2014年にスタートした「DANCE DANCE ASIA」。多国籍で構成される気鋭のダンサーたちと共に、多彩な表現力とテクニック、音楽が融合された作品を披露した。

期間：2019年7月12日～7月14日 会場：東京芸術劇場 シアターウエスト



ASEAN-Japan Music Festival 2019 in VIETNAM —prayer for peace—

日ベトナム特別大使で、日・ASEAN特別大使でもある杉良太郎氏のプロデュースのもと日本、ベトナム、ブルネイ、インドネシア、ラオス、ミャンマー、タイの代表的な歌手たちが共演し、熱気に満ちたパフォーマンスを繰り広げた。

日程：2019年7月28日 会場：Vietnam National Convention Center



写真:高野ユリカ



© bozzo

『サタンジャワ』サイレント映画 + 立体音響コンサート

ガリン・ヌグロホ監督(インドネシア)によって、生演奏付きで上映するために作られたサイレント映画。サウンドデザイナー・森永泰弘氏と、「水曜日のカンパネラ」のコムアイ氏との共演による、立体音響コンサート版を世界初演。

日程:2019年7月2日
会場:有楽町朝日ホール

『プラータナー:憑依のポートレート』

タイ現代文学の最前線を担う小説家ウティット・ヘーナムーン氏の小説を岡田利規氏の脚本・演出、塚原悠也氏のセノグラフィーにより舞台化。バンコク、パリでの公演を経て、日本での初演。

期間:2019年6月27日~7月7日
会場:東京芸術劇場 シアターイースト

呼吸する地図たち

2018年12月から翌年3月にかけて山口情報芸術センター [YCAM] で開催した「呼吸する地図たち」を再構成し、展示やレクチャー・パフォーマンス、シンポジウム等を通じて、東南アジアの文化とアジア太平洋地域における現代美術の「今」と「未来」を考えたい。

期間:2019年7月10日~7月15日
会場:東京芸術劇場 ギャラリー1



東南アジア映画の巨匠たち

東南アジア映画の特集上映及びシンポジウムを実施。シンポジウムでは、国内外からゲストを迎え、映画分野で求められる国際的な人材、国際協働の可能性について事例紹介をしながら議論した。

期間:2019年7月3日~7月10日
会場:[上映]有楽町スバル座

[シンポジウム]東京芸術劇場 ギャラリー1



写真:富田了平



© JFA

サッカー国際親善試合「JapaFunCup」

東南アジア11か国から選抜されたU-18選手が、アジアで最も多様なチームとして「ASIAN ELEVEN」を結成し、東北各県から選抜されたU-18選抜選手と対決。2014年から行ってきた、東南アジア各国と日本とのサッカー人材育成事業の集大成として開催された。

日程:2019年6月22日 会場:Jヴィレッジスタジアム(福島)



国際シンポジウム「外国人材登用時代における日本語教育 —日本語パートナーズ派遣事業の経験をもとにして—」

日本語パートナーズ経験者、現地日本語教師及び日本語教育や多文化共生に関わりのあるゲストを登壇者に迎え、日本語パートナーズ派遣事業の約5年間の成果を紹介し、本事業の継続的な取り組みの意義と今後の可能性について議論する国際シンポジウムを実施。

日程:2019年6月27日
会場:日経ホール

PICK UP FY2019

文化

インドにおける大型日本映画祭



© one frame story

『天気の子』の新海誠監督と超満員の客席

インドでは、2019年9月から2020年2月にかけて主要7都市*において新作・秀作を中心とした30作品を上映する大型日本映画祭を実施し、来場者数は3万6000人余りに及びました。ニューデリーでのオープニングでは、日本で2019年7月下旬に公開されたばかりの新作アニメ映画『天気の子』を、新海誠監督登壇のもとでプレミア上映し、現地の新海監督のファンによる熱烈的な歓迎ぶりは、The Times of India 等現地の主要メディアで大きく取り上げられ、日本国内でもNHKニュース『おはよう日本』、『国際報道』等で報道されました。『天気の子』はプレミア上映の後、日本のオリジナルアニメ映画としては初めてインド全国39都市の劇場で商業上映されました。

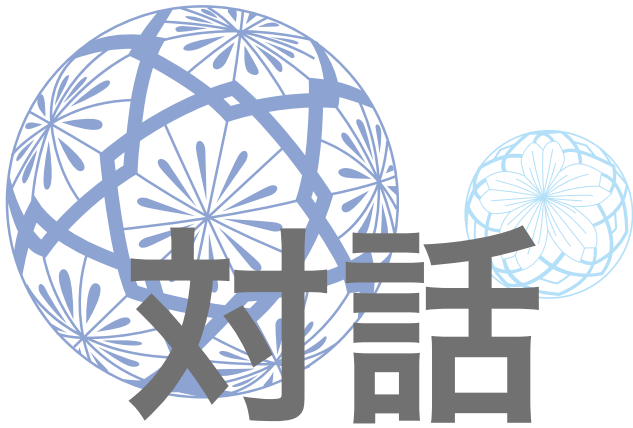
*主要7都市(デリー、グルガオン、チェンナイ、グワハティ、バンガロール、ムンバイ、コルカタ)



言語

「国際交流基金日本語基礎テスト (JFT-Basic)」を開始

2019年4月に新設された在留資格「特定技能」に合わせ、「国際交流基金日本語基礎テスト (JFT-Basic)」を開始しました。主として就労のために来日する外国人が遭遇する生活場面でのコミュニケーションに必要な日本語能力の測定を目的としています。ヨーロッパ言語共通参照枠 (CEFR) 及び JF 日本語教育スタンダードの考えに基づいて「特定技能1号」の取得に必要な日本語能力水準を測るコンピュータテストです。2019年度はアジアの6か国9都市で7971人が受験しました。



「Japan 2019」で活躍した 元国際交流基金フェロー達



「神道：日本美術における神性の発見」展を監修したシネード・ヴィルバー氏(左)



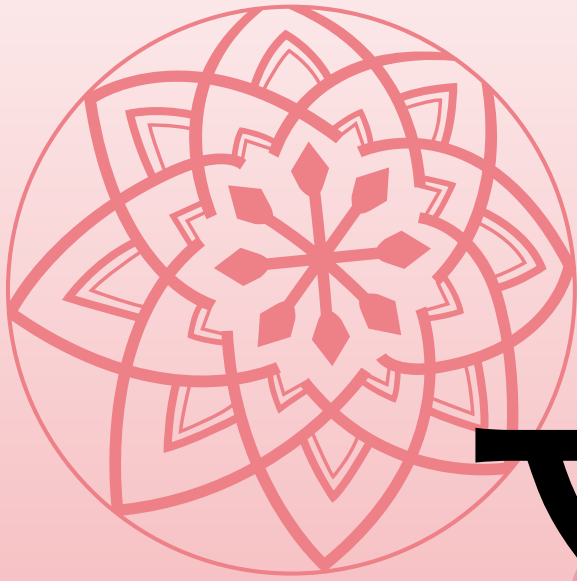
「日本美術に見る動物の姿」展を案内するロバート・シンガー氏(右)

米国で展開された「Japan 2019」において、過去の日本研究フェローが大活躍しました。ニューヨークのメトロポリタン美術館で20万人以上の来場者を魅了した『「源氏物語」展 in NEW YORK ～紫式部、千年の時めき～』展を監修したのはメリッサ・マコーミック学芸員(1995、2012年度)。米国で43年ぶりの大規模な神道に関する展覧会となったクリーブランド美術館の「神道：日本美術における神性の発見」展の監修はシネード・ヴィルバー学芸員(2002年度)。さらにワシントンD.C.とロサンゼルスで開催された「日本美術に見る動物の姿」展の企画・監修は第1期(1974年度)フェローのロバート・シンガー学芸員によるものでした。



日本語パートナーズ 学習者招へい事業

2019年11月、日本語パートナーズが活動してきた東南アジア各国の派遣先校の中から、訪日経験のない日本語学習者50人を日本に招へいしました。学習者たちは東京や広島での視察プログラムを通じて多様な日本に触れました。また、高校、大学、専門学校等を訪問し、校舎や授業、部活動など自国とのさまざまな違いを知るとともに、日本の学生との交流を通じて、日本に対する理解を深め、日本語学習のモチベーションを高めました。8日間のプログラム期間中、日本語でコミュニケーションをとることで、国を越えた学習者同士の絆も深まりました。



文化

文化芸術交流

海外の異なる文化や芸術に触れる感動は、
言語の違いを越えて、
相手への興味と共感を生み出します。
日本の文化・芸術を幅広く世界に紹介し、
人々の心の距離を近づけます。



2019年度文化芸術交流

主催事業の来場者・参加者数

153万4308人

多様な日本の文化・芸術の海外への紹介

国際相互理解の増進のため、伝統芸能から現代アートまで多様な日本文化の魅力を、公演、展覧会、翻訳・出版、映画上映、テレビ放送等、さまざまな形で世界の人々に向けて紹介しています。

また、文化・芸術分野における人材育成やネットワーク形成等のため、専門家の派遣・招へい、ワークショップ等を行っています。



第58回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展 日本館展示「Cosmo-Eggs | 宇宙の卵」展

展覧会

120年の歴史を誇り、世界の注目を集めるヴェネチア・ビエンナーレ。2019年には第58回国際美術展が開催され、国際交流基金は日本館における展示を主催しました。下道基行氏（美術家）、安野太郎氏（作曲家）、石倉敏明氏（人類学者）、能作文徳氏（建築家）、服部浩之氏（キュレーター）の5人による「Cosmo-Eggs | 宇宙の卵」展は、35万1000人を超える来場者を集め、好評を博しました。

また、全世界に向けた継続的な事業展開として、2019年度も17の展覧会を世界各国に巡回。陶芸・工芸・日本人形から現代美術・写真・建築・デザインまで、多様なテーマで構成された展覧会を、46か国・地域の75都市において開催し、合計約31万人の来場者数を記録しました。

舞台公演

日ペルー交流年（日本人移住120周年）の節目に、神里雄大・演出により、日系移民のルーツを辿る作品、『+51 アビアシオン、サンボルハ』を、岡崎藝術座がペルーとメキシコで上演。現地紙に高く評価され、日本の現代演劇が進出する機会が少ない地域で功績を残しました。

またケルン日本文化会館開館50周年を記念し、ドイツとスイスで梅若研能会による能楽公演を行いました。ベルリン音楽祭の公式プログラムとして、格式あるベルリン・フィルハーモニー大ホール初の本格的能楽公演となるなど評判を呼びました。

この他、日韓交流おまつり in Seoul には、伊丹市立伊丹高校吹奏楽部「ICHI ☆ ITA JAZZ Ensemble」と秋田県の「西馬音内盆踊り」が出演。更に米国ワシントン D.C. の全米桜祭りや英国のロンドン・ジャパン祭り等でもハイライトとなる公演を実施しています。



© Carlos Alvar

メキシコにおける 神里雄大/岡崎藝術座『+51 アビアシオン、サンボルハ』公演



ドイツ・ケルン・フィルハーモニーの能楽公演



モスクワにおける「第53回ロシア日本映画祭」オープニング

中国各地で日本映画を上映

中国では、2017年「日中国交正常化45周年」、2018年「日中平和友好条約締結40周年」に実施した事業の成果を踏まえて、映画の相互交流の促進を図り、かつ、中国における日本映画の上映機会を更に確保するために、8都市において日本映画を上映し、6700人以上の観客が日本映画を楽しみました。



広州の上映会にて、『ブルーアワーにぶっ飛ばす』箱田優子監督(中央)とファンたち

日露映画交流事業

ロシアでは、2018年「ロシアにおける日本年」で実施した日本映画祭等の実績を踏まえ、将来的な日露交流の深化に繋げるべく、10都市において新作を中心とした日本映画祭を開催しました。作品上映に加えて、日本からプロデューサーや監督を派遣し、現地でアニメーションを学ぶ学生を対象としたワークショップや日本映画ファンとの交流の機会を創出しました。また、ロシアでは日本のクラシック映画に対しても高い関心が寄せられていることから、モスクワとサンクトペテルブルクで、山田洋次監督の特集上映を実施し、日本映画祭とあわせて約2万人のファンが日本映画を楽しみました。



北京の上映会にて、『引越し大名！』犬童一心監督(中央)とファンたち

テレビ番組紹介

日本のコンテンツが放送されにくい国・地域を対象に、日本理解のきっかけとなるようテレビ番組を紹介する事業を実施。2019年度はドラマ、アニメ、バラエティ、映画、ドキュメンタリー等、84か国・地域で、のべ722番組が放送されました。



『ジャングル大帝 勇気が未来をかえる』



『日曜劇場 天皇の料理番』



『京の摺師〜パリに渡った浮世絵〜』



日中交流センター

日本と中国の未来を担う青少年を中心とする交流活動を促進し、互いの生活や文化を体験する機会を提供することで、相互理解を深めています。これからも双方向性と協働性を重視した事業を実施し、より深く息の長い「心と心のつながり(=心連心)」を築くことを目指します。



2019年9月に来日した第14期生26人。北海道から沖縄まで、全国各地の高校で留学生生活を送っている。

中国高校生長期招へい事業

次世代を担う中国の高校生に、約11か月にわたり、日本の一般的な高校生の生活を体験する機会を提供しています。2019年度は、第13期生26人が7月に帰国、第14期生26人が9月に来日し、これまでの招へい者数は総計442人となりました。第13期までに招へいした416人のうち221人が日本の大学・大学院に進学、日本国内企業に就職するなどの形で日本に再来日しており、日中間を結ぶ人材が着実に育っています。

中国「ふれあいの場」事業

日本人や日本の情報に触れる機会が限られた中国地方都市の大学等の機関において、日本の雑誌・書籍・映像資料等の最新コンテンツの閲覧・視聴ができる「ふれあいの場」の設置を支援しています。「ふれあいの場」では、在留邦人や現地の中国人の協力も得て、さまざまな日中交流イベントを開催しています。



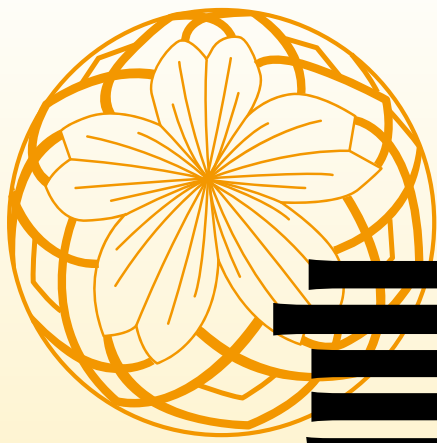
内モンゴル自治区の内蒙大学に新規オープンしたフフホトの「ふれあいの場」。日本文化体験や日中交流に関するさまざまなイベントを実施。



「第3回日中大学生フォーラム」を企画・運営した北京在住日本人留学生チームと吉林大学学生。長春ふれあいの場で、ディベート・ビジネスモデル発表会・ミニディスカッションを通して交流を深めた。

ネットワーク強化事業

日中両国の交流の担い手となる青少年間のネットワーク構築を目指し、共同作業に重きを置いたさまざまな事業を実施しています。2019年度も、日中両国の大学生が共同で日本文化紹介イベントの企画・運営を行う「大学生交流事業」、ビジネスや就職を切り口に日中の大学生が企業訪問・ディスカッションを行う合宿型交流プログラム「リードアジア」の支援、日中両言語対応の「心連心ウェブサイト」の運営等を行ってきました。



言語

海外における日本語教育

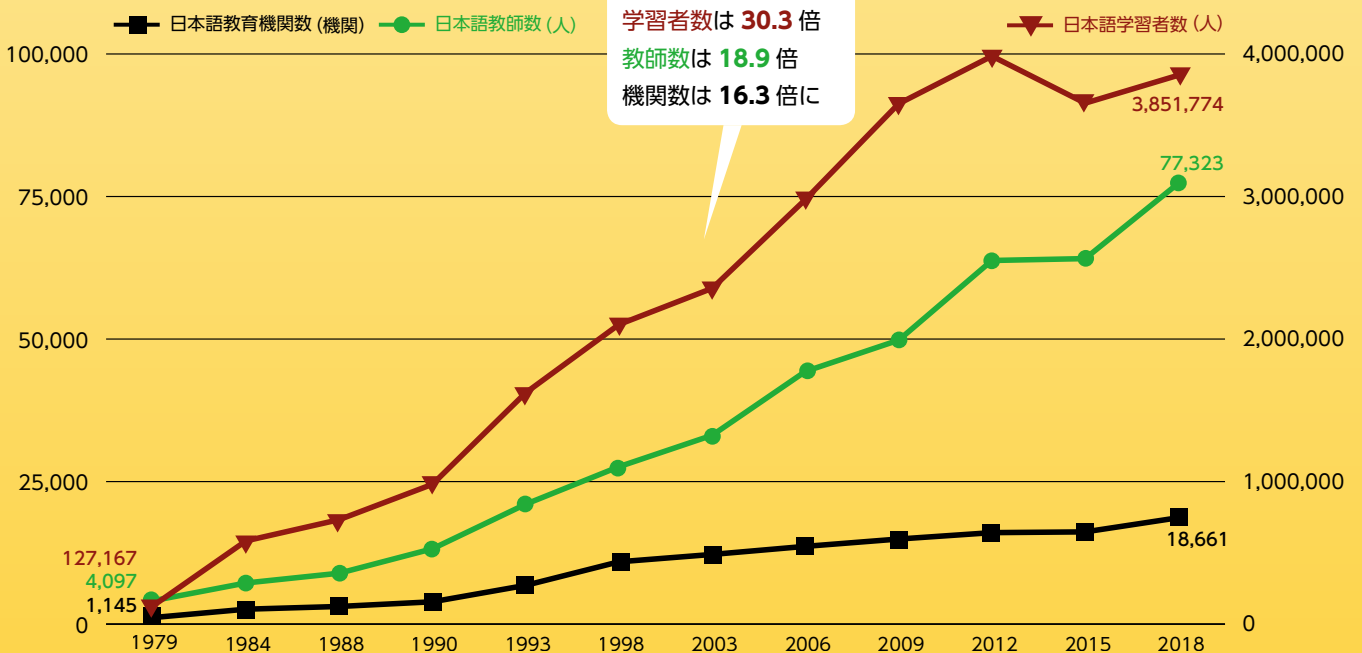
海外の人たちに日本語を知ってもらうことは、
日本への親しみや理解を広げるきっかけとなります。
世界中で多くの人に日本語を学んでもらえるよう、
各国の日本語学習環境の整備を進めています。

機関数 **1万8661**

教師数 **7万7323人**

学習者数 **385万1774人**

日本語学習者／教師／教育機関数の推移



2018年度「海外日本語教育機関調査」

海外の日本語教育環境の整備

海外において質が高く安定した日本語教育が広く実施されるよう、各国・地域の状況等を踏まえつつ、現地の行政機関や主要な日本語教育機関と連携して主に次の事業を行い、各地の日本語教育環境の整備を進めました。

日本語専門家の海外派遣

各国教育省や国際交流基金海外事務所、教育機関等に日本語教育の専門家や指導助手を派遣し(41 개국 126 포스트)、現地日本語教師への研修、教材作成・日本語教授法等の助言、教師間のネットワーク形成支援、教育機関への巡回指導等を行っています。また、米国の初中等教育機関へ若手日本語教員(J-LEAP)12人の派遣も行っています。



カイロ日本文化センターの「日本語教師養成講座」受講生と日本語上級専門家

日本語教育機関に対する活動助成、ネットワーク形成支援

JF にほんごネットワーク(さくらネットワーク)メンバー*や世界各地の日本語教育機関に対し、日本語講座運営、教材購入、弁論大会、会議等の日本語普及活動について助成を行っています。

*「さくらネットワーク」メンバーは、各国の中核的日本語教育機関・団体。2019年度末現在93か国・地域292機関。



エチオピアで開催された「第1回アフリカ日本語教育会議」

各国日本語教師・学習者等を対象にした研修の実施

海外での日本語教育を担う人材のスキルアップ等のため、日本語国際センター及び関西国際センターにおいて日本語教師及び学習者等の招へい研修を実施しました。



関西国際センター「さくらネットワーク」企画型訪日研修

EPAに基づく訪日前日本語研修の実施/ 教師育成特別強化事業

インドネシア・フィリピンと日本との二国間経済連携協定(EPA)に基づき、看護師・介護福祉士候補者662人を対象とした来日前の日本語予備教育事業を実施しました。また、インド、ベトナム、ミャンマーにて



ミャンマーの日本語教師育成コース開講式

日本語教師の新規養成及び現職教師のレベルアップを目的とした研修を行い、3か国でのべ1147人が参加しました。

各国・地域の政策決定者・教育関係者への働きかけ(アドボカシー招へい)

日本語教育の拡充及び質的向上を目的として、2019年度はオーストラリアとタイの教育行政関係者及び初等・中等教育機関学校長の方々に日本に招へいし、日本語教育・文化・社会状況の視察や、日本語教育関係者の方々との意見交換を行いました。



国際交流基金本部を訪問するオーストラリアの学校長の方々

GEN-J 日本語教育サポーター

米国における日本企業と地域社会の連携強化を目的として、2018年から2年間の予定で実施している「グラスルーツからの日米関係強化派遣(GEN-J)」の枠組みで、南部・中西部において日本語教育サポーター7人が日本語を通じた交流事業を実施しました。



アトランタのJAPAN FEST 2019に参加する「GEN-J」日本語教育サポーター

海外における日本語教授法及び 日本語学習者の能力評価の充実

より一層の日本語普及のためには、日本語学習者の利便性向上に繋がる教育内容の国際標準化と、学習奨励にも資する能力評価の充実が重要になることから、主に次の事業を行いました。

日本語能力試験 (JLPT) の実施

日本語を母語としない人を対象とした世界最大規模の日本語能力試験を1984年から実施しています。

2019年度は、ブータン、ベナンの2か国、さらに紹興、鄭州、信陽(中国)、カガヤン・デ・オロ(フィリピン)、セーラム(インド)、オタワ(カナダ)、サラマンカ(メキシコ)、バレンシア、ラスパルマス(スペイン)、カザン(ロシア)の10都市で新規に試験を実施し、国内(47都道府県)を含む全世界合計87か国、307都市と実施国・都市数を拡大。国内外の応募者数(136万2167人)・受験者数(116万8535人)ともに年々増加しており、1984年からの国内外の累計応募者数は1439万7803人、受験者数は1235万4410人となりました。



カザン(ロシア)での日本語能力試験(JLPT)実施



日本語学習プラットフォーム「みなと」

eラーニングの開発・運営

日本語学習プラットフォーム「みなと」において「漢字 A1-1」、「ひらがな・カタカナ」(スペイン語)、「書道」コースの開講等、コンテンツの拡充と利便性向上及び広報に努めた結果、ユーザー数は14万1681人と前年度末に比べて倍増しました。また、日本語学習ポータルサイト「NIHONGO eな」をモバイル端末でも使いやすいように全面リニューアルしました。

日本語教授法に関する情報発信と素材の提供

「JF 日本語教育スタンダード*」の活用促進のため、ウェブサイトやSNS等を通じた情報発信を行ったほか、準拠教材『まるごと 日本のことばと文化』の現地出版やサポート教材の多言語化、「JF 生活日本語 Can-do」及び新教材『いづり 生活の日本語』の公開、また、NHK ワールド JAPAN のラジオ番組『Easy Japanese (やさしい日本語)』の監修等を行いました。

*「課題遂行能力」と「異文化理解能力」の育成を重視した、コースデザイン、授業設計、評価を考慮するための枠組みです。



日本語国際センター

海外での日本語教育を総合的に支援するため1989年に設立。海外の日本語教師を招へいして日本語、日本語教授法、日本文化等の研修を実施しています。また、日本語教材の制作や「JF 日本語教育スタンダード」の普及事業を行っています。



海外日本語教師研修(日本語)日本文化体験ワークショップ

関西国際センター

海外の日本語学習者を支援する日本語研修施設として1997年に設立。各国の外交官、公務員や日本研究者等を招へいし、職務や研究に役立つ専門日本語の研修を行うほか、日本語学習者等の訪日研修を実施しています。また、研修事業で得たノウハウを基に、日本語オンラインコース、日本語学習サイトやアプリなどのeラーニング教材の開発を推進しています。



日本語学習者訪日研修

新たな外国人材受入れのための日本語教育事業

2018年12月の関係閣僚会議決定「外国人材の受入れ・共生のための総合的対応策」に則り、「特定技能」外国人材向け日本語事業を開始しました。海外事務所、日本から派遣した日本語教育専門家・生活日本語コーディネーターと連携して、図の4つの柱を中心に、政府が指定した9か国（中国、モンゴル、インドネシア、カンボジア、タイ、フィリピン、ベトナム、ミャンマー、ネパール）を対象として、日本での生活・就労を目指す人々の効果的・効率的な日本語能力習得を支援する取り組みを行いました。また、日本語学習支援のための新教材『いろどり生活の日本語』を開発して、無料のオンライン公開を開始しました。



生活日本語コーディネーター(タイ)



新教材『いろどり 生活の日本語』はウェブサイトから無料ダウンロード可能



生活日本語コーディネーター(ミャンマー)



2018年度海外日本語教育機関調査速報値の記者発表

海外日本語教育機関調査

海外の日本語教育の現状を把握するため、3年に一度「海外日本語教育機関調査」を全世界で実施。2018年度調査の集計作業を進めた結果、1974年の調査開始以来、過去最多の142か国・地域で日本語教育の実施が確認され、日本語教育機関数、教師数、学習者はいずれも前回(2015年度)から増加し、世界全体の日本語学習者数は約385万人に達したことが分かりました。2018年度調査を含むこれまでの調査結果については、国際交流基金ホームページで公表しています。



対話

日本研究・知的交流

海外での日本研究を支援することは、深い相互理解へとつながります。
また、世界共通の課題についてのシンポジウムや
共同プロジェクトを通じ、専門家同士の交流を促進します。

海外の研究者等に対するフェローシップ供与実績 (のべ人数)^{※1}



安倍フェローシップ

6935人

関連出版物総数^{※2}

4086点

(うち日本語文献 1363 件、英語文献 2723 件)

2019 年度に発表されたフェロー^{※3} による刊行論文等

日本語文献 **60件**

英語文献 **75件**



日米草の根派遣交流 (JOI) プログラム

2019 年度アウトリーチ数^{※4}

4万8702人

アウトリーチ総数^{※5}

約111万人

※1 国際交流基金が設立された 1972 年以後の各年度の新規開始件数を累計したもの。文化芸術、日本語教育関係者や、アジア文化交流強化事業として実施されたものを含む。
※2 事業開始～2020 年 3 月
※3 過去の受給経験者を含む
※4 イベントや催し参加者数
※5 2003 年度 (第 1 期 2 年目) ～ 2019 年度末時点

海外における日本研究

各国・地域の日本研究の基盤を強化し、専門家を育成するために、拠点となる機関に対し、国際会議や教員雇用、図書整備、訪日研修等の支援を行います。また、各地の日本研究者が国を越えて交流するネットワークを強化することで、日本研究のさらなる発展を促します。



「ウィンター・インスティテュート 2019」

日米東南アジアを中心とした日本研究者のネットワーク強化に向け、2019年12月、招へい研修プログラム「ウィンター・インスティテュート」が実施されました。2018年まで夏に開催されていた「サマー・インスティテュート」参加者から選抜された若手24人が来日し、東南アジアとの連携強化に取り組んできた米国の研究者を講師に迎え、国際的なキャリア形成や3地域の持続的な協働等について、活発な議論が交わされました。

「東アジア日本研究者協議会」

東アジア地域初の日本研究者ネットワーク「東アジア日本研究者協議会」の第4回国際学術会議が、台湾で開催されました。この会議は韓国・中国・日本・台湾の順に持ち回りで開催されています。発足から4年目を迎えた今大会で開催地が一巡し、参加者数、パネル数ともに過去最多となりました。



日本研究フェロースhip マフムード・アル・カイシー (バグダッド大学文学部教授)



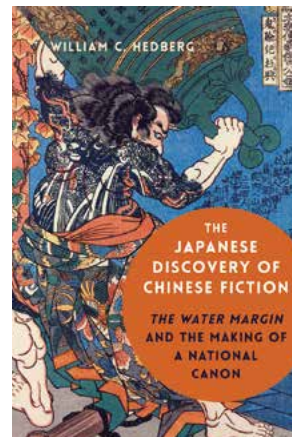
イラクからの数少ないフェローの一人、アル・カイシー教授は、フェローとしての何度かの訪日研究、バグダッド大学での日本語講座の運営といった功績により、2019年に旭日小綬章を受章しました。若手研究者を指導する一方、同年には「日本語ラボ」を同大学に設置するなど、イラク国内における日本研究・日本語教育の発展に欠かせない存在になっています。

日本研究機関支援 アリゾナ州立大学 (ASU) (米国)

米国有数の学生数を誇るアリゾナ州立大学では、国際交流基金の支援により新設された日本研究の教員ポストにロバート・タック氏が助教授として採用され、大学と大学院の両方で日本関連の授業を増やすことが可能となりました。また、客員講師招へいや図書拡充、所属教員の訪日調査などの複合的支援により日本研究プログラムが一層充実したことで、さらなる教員の拡充が大学当局により認められ、教員不足により休止していた修士課程の再開に繋がりました。



新規雇用されたロバート・タック助教授



研究支援により同大ウィリアム・C・ヘドバーグ助教授が執筆した書籍

知的交流

日本と世界各国に共通する関心の高いテーマや重要課題について知識人らが対話し、人的な交流を重ね深める場として、国際会議やシンポジウムの開催、専門家の派遣や招へいを行っています。次代の交流について必要な人材の育成、国際相互理解を促進し、世界の発展と安定への知的貢献を目指します。



日独シンポジウム「東京とベルリン—ユニバーサルデザインのまちづくり」

2019年11月、ベルリンで、インクルーシブでアクセシブルな街づくりに関するシンポジウムを実施しました。日本から派遣した、研究者・障がい当事者・行政・民間企業それぞれの立場でこの課題に取り組む5氏と、ドイツ側のカウンターパートとの間で、五輪開催を控えて注目度が高まる東京の最新の取り組みを中心とする事例の共有と、活発な意見交換が行われました。現地の聴衆からは日本のユニバーサルデザインを活かした街づくりを評価する声が多数聞かれました。

中国知識人招へい

対日理解の深化や知的ネットワーク構築のため、中国で高い発信力を持つ若手・中堅の研究者、知識人を日本に招へいしています。2019年度招へいの張豊氏は「日本人のスポーツ観」をテーマに訪日研究を行い、15本のコラムを中国メディアに発表、うち1本は翻訳され日本のメディアにも掲載される等、研究の成果を広く発信しました。



スポーツに関連する人物や場所を積極的に取材するコラムニストの張豊氏

オギュスタン・ベルク氏関連シンポジウム

風土論を専門とするフランス国立社会科学高等研究院退任教授オギュスタン・ベルク氏(2011年度国際交流基金賞受賞)がパリにて2件のシンポジウムを実施し、現地の聴衆と活発な議論を行いました。日本での研究を通じて確立した、ベルク氏独自の自然と人間の共生関係は、東日本大震災で被災した日本だけでなく世界各国で広く関心を持たれ評価されています。



畠山 重篤氏著『森は海の恋人』の仏語版出版記念シンポジウムで講演を行うベルク氏(左)



日米センターは、日米両国が協力してグローバルな課題に取り組むことを目的に、1991年に設立されました。日米協働による世界への貢献と相互理解に基づくゆるぎない協力関係を実現すべく各界各層における対話と交流を促進しています。

安倍フェロシップ／ グローバルフォーラム

日米センターと米国社会科学研究評議会 (SSRC) が協力して運営する研究奨学制度で、2019年度は新たに14人の研究者・ジャーナリストを採用するとともに、「サイバーセキュリティ」をテーマとする「安倍フェロシップ・グローバルフォーラム」をサンフランシスコ及びワシントンD.C. にて開催しました。



2019年9月5日 ハドソン研究所(ワシントンD.C.)で開催されたフォーラムの様子

日米知識人交流事業



2020年1月24日 三重大学にて講演を行うシンシア・テニエンテ・マトソン氏

米国の多様な知的コミュニティのリーダーを日本に招き、日米知識人のネットワークを形成する交流事業として、シンシア・テニエンテ・マトソン氏 (テキサス A&M 大学 サンアントニオ校学長) を招へい。津田塾大学では高橋裕子学長と大学経営への女性参画とリーダーシップについて対談、三重大学では「グローバル時代におけるキャリアデザインと地域との繋がり」をテーマに講演会を実施し、学生たちと意見交換をしました。

日米草の根交流コーディネーター派遣 (JOI)

JOI プログラムは、米国の非営利団体のローラシアン協会と共催で行っており、米国の草の根レベルで日本への関心と理解を深めることを目的に、南部・中西部地域にコーディネーターを派遣しています。2019年度は新規に5人のコーディネーターを派遣 (第18期) したほか、継続派遣中の11人と合わせ、のべ16人が地域の学校や図書館等で日本文化を紹介する幅広い活動を行いました。



春をテーマにした折り紙を紹介し、カーネーションを付けた母の日のカードを作成

グラスルーツからの日米関係強化派遣 (Grassroots Exchange Network-Japan : GEN-J) 地域リーダー招へい事業



訪問先企業で説明を受ける被招へい者の様子

米国における日本企業と地域社会の連携強化を目指す「グラスルーツからの日米関係強化 (GEN-J)」の一環として、米国中西部・南部から、州務長官・議員・投資誘致機関幹部・ジャーナリスト等の地域リーダー計120人を約1週間の日程で招へいしました。東京で外務省・経団連・JETROでのブリーフィングを受けた後、地方都市を訪問し日本企業の生産現場を見学するとともに、地元ビジネスリーダーとの意見交換等を実施しました。また、歴史・文化施設の視察や茶道や和食の体験も行い、ビジネスだけでなく日本文化や社会への理解を深めました。

アジアセンター

アジアセンターは、日本語教育、芸術・文化、スポーツ、
市民交流、知的交流等さまざまな分野で ASEAN 諸国を中心とした
アジアの人々との双方向の交流事業を実施・支援しています。
アジアとともに生きる隣人としての共感や共生の意識を育むこと、
アジアの架け橋となる人材を育成することを目指しています。

日本語学習支援

教えた学生数 (のべ) **65万4553人**

日本語パートナーズ派遣人数 (のべ) **2375人**

芸術・文化の双方向交流

主催・助成件数 **2330件**

参加者数 (のべ) **540万8946人**

※2014年度～2019年度の累計

アジアセンターの設立経緯

2013年12月に東京で開催された日・ASEAN 特別首脳会議において、日本政府が発表した新しいアジア文化交流政策「文化のWA（和・環・輪）プロジェクト～知り合うアジア～」を担う部署として、2014年4月にアジアセンターが設置されました。

日本語学習支援

日本語パートナーズ派遣事業

アジアで日本語を教える教師や生徒のパートナーとして、授業のアシスタントや日本文化の紹介を行う日本語パートナーズを現地の教育機関へ派遣しています。2019年度は、ASEAN10 か国と中国・台湾の501の中学・高校・大学等に、515人を派遣しました。日本語パートナーズは日本語学習者や地域の人々とのふれあいを生み出すとともに、課外活動やイベントなどを通して日本文化の紹介を行っています。

年齢も経歴も多様な人々が、生きた日本語を伝える

専門知識がなくても、特技のある方、人生のキャリアを積んだ方、アジアとの交流に熱意を持った方等がそれぞれの強みと経験を生かし、日本語ネイティブだからこその生きた日本語、リアルな日本を伝えています。

学び合うことで生まれる深い絆

日本語パートナーズは、日本語や日本文化を伝えるだけではなく、派遣先では現地の言葉と文化を学びます。相手への敬意をもって対等な立場で交流することで現地の人との絆を深めています。



参加者の声

日本語パートナーズ

日本語パートナーズ インドネシア 9期
佐野由生子さん



派遣先校の生徒と、地元・沼津（静岡県）の高校生との文通を企画し、インドネシアの高校生が同世代の日本人と日本語を通じて交流する姿に喜びを感じました。帰国後は沼津で消防士として外国人への防災教育などに携わりつつ、地域に住む外国人の方が日々不安なく暮らすための支援を行う日本語ボランティアを始めました。これからもアジアの架け橋として活動を続け、日本のファンをさらに増やしていきたいです。

派遣先校の教師

ミリ理科中学高等学校
フィオナ・トー・シュー・チュー先生（マレーシア）



生徒たちは初め、日本語パートナーズと話すのを恥ずかしがっていましたが、話したい気持ちが強かったようで、だんだん積極的になっていきました。パートナーズが日本人の友達を授業に招いて生徒たちと話す機会を作ってくれたのも、生徒たちの会話力と聞く力を上げるのに役立ちました。パートナーズが来て、生徒たちは日本語や日本についてもっと知りたいと、より前向きに授業に取り組むようになりました。

派遣先校の生徒

プアー学校
シティゴーン・カラスさん（タイ）



日本語の授業では文法や単語を中心に勉強していたので、会話が苦手でした。でも、日本語パートナーズが来て、毎日日本語で話すことができるようになり、今は自信を持って会話できるようになりました。将来は大学で日本語を勉強し、日本に留学したり、日本に関わる仕事に就いたりしたいです。

芸術・文化の双方向交流事業



美術、映画・映像、舞台芸術、スポーツ、市民交流、知的交流等さまざまな分野で、アジアの人々の交流活動を推進しています。双方向性、協働性を重視し、各々のアイデンティティと多様性を尊重し合い、共にアジアの新たな文化を創造します。

タイと日本 国際共同制作の舞台

『ブラータナー：憑依のポートレート』は、複数年にわたる国際共同制作を経て完成した現代舞台作品です。タイのウティット・ヘーラムーン氏の小説を、岡田利規氏の脚本・演出と塚原悠也氏のセノグラフィ、タイの俳優、日泰両国スタッフの協働により舞台化し、「響きあうアジア 2019」の一環として日本初演が実現。11回の上演と関連企画に1800人の観客を動員し、第27回読売演劇大賞の選考委員特別賞及び優秀スタッフ賞を受賞しました。



メディアアート交流事業

アートとテクノロジーに焦点をあてた交流事業の一環として、NTTインターコミュニケーション・センター [ICC] と共催で、「開かれた可能性—ノンリニアな未来の想像と創造」展をシンガポールと東京で実施。また、エレクトロニックミュージック分野では、アジア4か国のアーティストによるライブコンサート「Imaginary Line」を東京で開催しました。



「第32回 東京国際映画祭」をプラットフォームとした映画交流事業

「第32回 東京国際映画祭」と連携してアジアの映画人70人を招へいし、日本の関係者とのネットワーク構築の機会を提供、また同映画祭のアジア映画紹介部門「CROSSCUT ASIA」を共催し、ホラー、スリラー、SF等の東南アジア映画10作品を特集上映し、シンポジウム等関連イベントを含め2500人以上が参加しました。



「ASIAN ELEVEN」東南アジアとのサッカー交流事業

「アジアで最も多様なチームを創る」のキャッチフレーズのもと、日本とASEAN 10か国及び東ティモールによる選抜チームを結成。6月に福島のJヴィレッジスタジアムで東北代表(男子U-18)と、11月にはタイのバンコクでタイ代表(男子U-16)と国際親善試合を実施しました。また、応援ソングの『I BELIEVE』をボーカルグループ Little Glee Monster が歌いました。



「第6回 三陸国際芸術祭」

岩手県大船渡市・久慈市・大槌町・山田町、青森県八戸市にて「第6回 三陸国際芸術祭-『触レル』」を三陸国際芸術推進委員会と開催。インドネシア・バリ島のバロンダンスの踊り手とガムラン奏者、日本のガムラン演奏グループが参加しました。日本とインドネシアのさまざまな「シン」たちが一堂に会し、大迫力の共演を行いました。



「ダイバーシティをはぐくむ EYES プロジェクト」

多文化共生社会の実現をめざし、日本とASEAN各国のNPOや文化機関の中堅実務者を対象とした人材育成プロジェクトを実施。2週間の日程でフィリピンと日本で行った研修では、アートを活用した「コミュニティデザイン」の手法を用いて文化的差異を包摂し、豊かな社会を形成するモデル事業について考えました。



国際文化交流への理解と参画の促進

国際交流基金では、「国際交流基金賞」及び「国際交流基金地球市民賞」により、国際文化交流を通じて日本と海外の相互理解の深化に貢献した個人・団体や、地域に根ざした優れた国際交流を行っている団体を顕彰しています。

国際交流基金賞

学術、芸術その他の文化活動を通じて、国際相互理解の増進や国際友好親善の促進に特に顕著な貢献があり、引き続き活躍が期待される個人・団体へ国際交流基金賞を授与しています。47回目となる2019年度は、73件の候補の中から、3件の受賞者を決定しました。

2019年度 受賞者及び授賞理由



谷川俊太郎（詩人）【日本】

谷川氏は1952年より詩作を続け、幅広い作風を特徴とし、その活動は、詩作、作詞、脚本、絵本、童話、エッセイ等多岐にわたる。日本語のリズムの特殊性、ことばの持つ響きを学ぶことができる『ことばあそびうた』、分かりやすいことばで普遍的なものに向き合う詩『生きる』など数々の作品が日本語学習の教材にも取り上げられてきた。また、20数か国語に翻訳され、世界中の人々が日本との距離を縮めるきっかけとなっている。



インドネシア元日本留学生協会（プルサダ）【インドネシア】

インドネシア元日本留学生協会（プルサダ）は1963年に元日本留学生を中心に設立された。現在では約8000人の元日本留学生を擁し、意義ある活動を数多く展開している。1986年にはプルサダとインドネシア日本友好協会が中心となって私立ダルマ・プルサダ大学を設立。同大学は、両国の懸け橋となる人材を多数輩出している。プルサダは日本とインドネシアを繋ぐ交流拠点であり、今後も友好交流の中核としての役割を担っていくことが期待される。



エヴァ・パワシュルトコフスカ（ワルシャワ大学教授）【ポーランド】

パワシュルトコフスカ氏は、ポーランドを代表する日本史研究者の一人である。ワルシャワ大学日本学科で研究・教育に携わり、多くの後進を育ててきた。主な業績は、日露戦争から第二次世界大戦の時期の両国関係の研究であり、著書『ポーランド・日本関係史』は、この分野に関する唯一の通史としてあり続けている。さらに日本文化の普及や、両国関係を扱った出版物の編集や国際学会の組織などを通じて、日本と世界の相互理解に寄与してきた。

国際交流基金地球市民賞

日本と海外の市民同士の結びつきや連携を深め、互いの知恵やアイデア、情報を交換し、ともに考える先進的で独自性のある活動に取り組む日本国内の団体を顕彰しています。35回目となる2019年度は98件の候補の中から、3件の受賞団体を決定しました。

2019年度 受賞団体及び授賞理由



四日市市立西笹川中学校 多文化共生サークル【三重県四日市市】

西笹川中学校は、外国にルーツを持つ生徒が3割を占める。「多文化共生サークル」は学校が枠組みを決めつつも、中学生が主体となって防災行事や夏祭り、文化祭等の地域イベントに密接に関わっており、生徒たちは「多文化共生活動」というよりも「まちづくり」という意識で参加している。このような活動に大人が触発されたり、家族を通して活動が広まったり、地域への愛着がわいた生徒たちが卒業後もサークルを立ち上げる等、外国人・日本人の垣根を越えた顔の見える関係づくりに貢献している。



特定非営利活動法人 ハート・オブ・ワールド【岡山県岡山市】

「心身ともに健全な育成」という理念に基づき、被災地や紛争地及び開発途上国の子どもたち、障がい者、貧困層の人々に対して、体育教育支援や養護施設・青少年人材の育成を目的とした日本語教室の運営、岡山県内各所と連携した交流等を行っている。対等な交流を目指し、活動を現地に移譲する等、自立かつ持続的に活動ができるような枠組みを作っており、また官・学・民を巻き込んで協働を実現している点は、複雑な社会課題の解決方法として注目されるものである。



国際児童・青少年演劇フェスティバルおきなわ実行委員会【沖縄県那覇市】

豊かな芸術体験は「ヌチグスイ＝命の薬」との考えから、子どもたちや地元の人々が独創的で上質な世界中の舞台公演に気軽に触れる機会を長年提供してきた。毎回10か国前後の約20作品を上演、ノンバーバル表現を中心とした作品によって、子供たちの感受性や想像力を育み、いまや世界各国の演劇関係者が集うアジアの演劇フェスティバルネットワークのハブとなっている。鑑賞者と劇場、劇団員、地元住民、ボランティア、海外からのインターン等、地域と世界と人々の心をつなぐ国際文化交流の好事例といえる。

1. 主催公演

梅若研究会 ドイツ・スイス公演
 空間現代 オーストラリア公演
 神里雄大／岡崎藝術座 ペルー・メキシコ公演
 「TICAD7 LIVE HEART FOR AFRICA」～ MISIA、久保田利伸出演
 TICAD7（第7回アフリカ開発会議）公式サイドイベント～

2. 日本祭り開催支援

森山直太郎ほかライブ（全米桜祭り 2020 / 新型コロナウイルス感染拡大を受け公演中止。代替として、同祭り公式サイトにてスペシャル動画配信）
 伊丹市立伊丹高等学校吹奏楽部 ICHI ☆ ITA JAZZ Ensemble ・西馬音内盆踊り 韓国公演（日韓交流おまつり in Seoul ほか）
 石見神楽 英国公演（ロンドン・ジャパン祭り（日英文化季間）ほか）

3. 海外派遣助成

54 各国・地域147都市、78件助成

4. パフォーミング・アーツ・ジャパン

9 各国32都市、15件助成
 北米：1 各国17都市、7件助成
 欧州：8 各国15都市、8件助成

5. 国際展

第58回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展（イタリア）日本館展示

6. 企画展

1 各国1都市、1件実施

7. 国際交流基金巡回展

17 セット、46 各国・地域75都市に巡回

8. 海外展助成

18 各国29都市、33件助成

9. 欧米ミュージアム基盤整備支援

2 各国4都市、4館支援

10. 国際図書展参加

8 各国8都市、8展参加

11. 翻訳出版助成

14 各国、18件助成

12. 専門家交流

石橋財団・国際交流基金 日本美術リサーチ・フェローシップ：12 各国、15人招へい
 石橋財団・国際交流基金 現代美術キュレーター等交流（米国）：1 各国、5人招へい
 石橋財団・国際交流基金 現代美術キュレーター等交流（欧州）：2 各国、7人招へい
 北米舞台芸術専門家招へい：2 各国、5人招へい
 日中キュレーター交流：1 各国、5人招へい
 東南アジア近現代建築保存：7 各国、11人招へい

13. 情報発信

舞台芸術ウェブサイト「パフォーミング・アーツ・ネットワーク・ジャパン(PANJ)」運営
 翻訳出版情報「日本文学翻訳書誌検索データベース」運営
 第13回日本国際漫画賞受賞者招へい：4 各国、4人招へい
 ASEAN オーケストラ支援事業：座談会実施
 日本映画データベース(JFDB)*

14. Japan 2019

公式企画8件
 『源氏物語』展 in NEW YORK ～紫式部、千年の時めき～
 「神道：日本美術における神性の発見」展
 「日本美術に見る動物の姿」展
 「全米桜祭り 2019」
 Japan Day@セントラルパーク
 Japan Night
 宮城聡演出・SPAC 『アンティゴネ』
 『杉本文楽 曾根崎心中』
 参加企画138件

15. 「ジャポニスム 2018」フォローアップ

フランス高校生グループ招へい：1 各国5都市、5校19人招へい

16. 日本映画上映

70 各国・地域で日本映画祭・上映会を実施
 助成事業：14 各国・地域、19件

17. テレビ番組紹介

84 各国・地域、のべ 722 のテレビ番組を放送

18. 中国高校生長期招へい

第13期生26人が帰国
 第14期生26人が来日

19. 中国「ふれあいの場」

中国国内18都市で運営、催しを実施（のべ来場者3万4631人）
 日本企業文化紹介セミナー
 各種レクチャー&デモンストレーション
 「ふれあいの場」実務担当者研修

20. ネットワーク強化

大学生交流事業
 高校校長・教員訪中事業
 「リードアジア 2019」
 「ふれあいの場」学生代表訪日研修等、派遣事業3件、招へい事業2件を実施

*映像事業部所管

1. 「JF 日本語教育スタンダード」の活用推進

「JF 日本語教育スタンダード」サイト年間アクセス数：約24万5000件
 「みんなの Can-do サイト」年間アクセス数：約35万件
 国内外の各種セミナー・研修会等での情報提供
 『まるごと 日本のことばと文化』海外出版 4 개국6 レベル刊行
 『JF 生活日本語 Can-do』及び新教材『いろいろ 生活の日本語』公開
 NHK ワールド JAPAN 『Easy Japanese (やさしい日本語)』監修

2. JF 講座の実施

27 개국・地域、29 都市

3. インターネットを活用した教育ツール

- (1) WEB 版「エリンが挑戦！にほんごできます。」
年間アクセス数：約350万件
- (2) 「みんなの教材サイト」年間アクセス数：約170万件
- (3) 「JF にほんご e ラーニング みなと」ユーザー登録者数：約14万2000人
- (4) 「ひろがる もっといるんな日本と日本語」年間アクセス数：約55万件
- (5) 「まるごと + (まるごとプラス)」年間アクセス数：約555万件
- (6) 「アニメ・マンガの日本語」年間アクセス数：約95万件
- (7) 「NIHONGO e な(いいな)」年間アクセス数：約108万件
- (8) 「日本語でケアナビ」年間アクセス数：約78万件
- (9) HIRAGANA Memory Hint (文字学習アプリ)
年間ダウンロード数：約8万件
- (10) KATAKANA Memory Hint (文字学習アプリ)
年間ダウンロード数：約5万件
- (11) KANJI Memory Hint 1,2&3 (文字学習アプリ)
年間ダウンロード数：約7万件
- (12) 「エリンと挑戦！にほんごテスト」(初学者向けアプリ)
年間ダウンロード数：約2万件

4. 日本語能力評価のための試験

- (1) 日本語能力試験(JLPT)
第1回試験(7月7日)：海外46 개국・地域、147 都市、
応募者数42万3604人(受験者数34万7517人)
国内*47 都道府県、応募者数22万5000人(受験者数20万2931人)
第2回試験(12月1日)：海外75 개국・地域、238 都市、
応募者数45万8684人(受験者数38万1933人)
国内*47 都道府県、応募者数25万9349人(受験者数23万6154人)
海外累計応募者数1084万746人(受験者数911万178人)
国内累計応募者数355万7057人(受験者数324万4232人)
*日本国内での試験は、共催者である(公財)日本国際教育支援協会が実施
- (2) 国際交流基金日本語基礎テスト(JFT-Basic)
年8回 海外6 개국、9 都市、応募者数8334人(受験者数7971人)

5. 日本語事業に関する調査、情報提供

『国際交流基金日本語教育紀要』(年1回の発行)
 「日本語教育国・地域別情報」サイトの運営
 「2018年度海外日本語教育機関調査」の集計、速報値発表(記者発表の実施)、報告書作成

6. 海外事務所における日本語事業及び「JF にほんごネットワーク」(さくらネットワーク)

国際交流基金海外事務所及び日本人材開発センター日本語事業部門
 (「日本センター」)事業：29 개국、256 件
 「さくらネットワーク」：93 개국・地域、292 機関
 海外日本語教育機関支援(助成)：82 개국・地域、569 件

7. 日本語専門家の海外派遣

日本語専門家等派遣
 日本語上級専門家：24 개국、32 ポスト
 日本語専門家：37 개국、82 ポスト
 日本語指導助手：12 개국、12 ポスト
 米国若手日本語教員(J-LEAP)：1 개국、12 ポスト
 日本語教育サポーター(グラスルーツからの日米関係強化事業：GEN-J)：1 개국、7 ポスト

8. 海外の教師を対象とした招へい研修

指導的日本語教師の養成
 日本語教育指導者養成プログラム(修士課程)：4 개국、4 人(継続4人)

海外日本語教師研修

基礎：31 개국、42 人

教授法：30 개국・地域、60 人

(教授法(夏期)：25 개국・地域、34 人)
 (教授法(冬期)：17 개국・地域、28 人)

大韓民国中等教育日本語教師研修：1 개국、35 人

中国中等学校日本語教師研修：1 개국、18 人

タイ日本語教師会教師研修：1 개국、14 人

テーマ別：24 개국・地域、36 人

(テーマ別(21世紀型スキル)：13 개국・地域、15 人)
 (テーマ別(ビジネス日本語)：8 개국、11 人)
 (テーマ別(コースデザイン)：9 개국、10 人)

日本語：16 개국、21 人

海外日本語教師特定技能制度による希望者のための日本語教授法研修：8 개국、81 人

大阪府クイーンズランド州日本語教師研修：1 개국、5 人

「さくらネットワーク」研修企画型(うち教師)：5 개국、8 人

東南アジア日本語教員養成大学移動講座(インドネシア)(うち教師)：1 개국、12 人

グラスルーツ交流強化事業(GEN-J)(うち教師)：1 개국、4 人

9. 海外の学習者等を対象とした招へい研修

専門日本語研修

2018年度(前年度からの継続)

外交官研修：27 개국、27 人

公務員研修：5 개국、5 人

文化・学術専門家研修

6 か月コース：7 개국、16 人

2019年度

外交官研修：29 개국、29 人

公務員研修：2 개국、2 人

文化・学術専門家研修

2 か月コース：6 개국、9 人

6 か月コース：8 개국、10 人

日本語学習者訪日研修

各国成績優秀者研修：46 개국、46 人

ブラジル日本留学希望者訪日研修：1 개국、10 人

李秀賢氏記念韓国青少年訪日研修：1 개국、17 人

「第48回日本語弁論大会」(インドネシア)大学生・一般の部入賞者訪日研修：1 개국、1 人

「さくらネットワーク」研修企画型研修(うち学習者)：5 개국、5 人

エセック・ビジネススクール訪日研修：1 개국(フランス)、7 人

グラスルーツ交流強化事業(GEN-J)(うち学習者)：1 개국、20 人

日本語教育キャパシティビルディング

東南アジア日本語教員養成大学移動講座(インドネシア)(うち学習者)：13 人

10. 経済連携協定(EPA)関連日本語教育研修

インドネシア及びフィリピンにおいて、看護師・介護福祉士候補者を対象に、日本語予備教育事業を6 か月間実施

EPA 研修：2 개국、4 件

2018年度(継続) インドネシア：334 人 フィリピン：323 人

2019年度(新規) インドネシア：322 人 フィリピン：340 人

11. 受託研修

教師研修

(公財)博報堂教育財団日本語交流プログラム

第11回海外教師日本研修：10 개국・地域、10 人

(公財)博報堂教育財団日本語研究フェロシップ：(第13回)1 개국、1 人(継続)

(第14回)1 개국、1 人

日露青年交流センター日本語教師派遣事業赴任前研修：1 개국、18 人

ニュージーランド日本語教師訪日研修：1 개국、6 人

メキシコ・ベラクルス州立大学日本語教師訪日研修：1 개국、4 人

学習者研修

関西日本ラトビア協会日本語学習者訪日研修：1 개국、1 人

エジプト日本科学技術大学(E-JUST)訪日研修：1 개국、5 人

(公財)大阪ガス国際交流財団インドネシア人大学生日本語研修：1 개국、2 人

グリフィス大学訪日研修(オーストラリア)：1 개국、7 人

ホンダ R&D アメリカズ訪日研修：1 개국、3 人

12. その他の研修

大阪府 JET 青年来日時研修：7 개국、47 人

全国 JET 日本語教授法研修：12 개국、29 人

13. 各センターの図書館

日本語国際センター 来館者数：1万5863人

関西国際センター 来館者数：1万2656人

1. 日本研究機関支援

(1) 日本研究基盤整備

(アジア)

韓国：翰林大学、高麗大学、ソウル大学日本研究所、ソウル大学アジア言語文学部

中国：浙江工商大学、南開大学、復旦大学

台湾：政治大学

インドネシア：インドネシア大学

ベトナム：ベトナム国家大学付属人文社会科学大学ハノイ校

インド：ジャワハルラル・ネルー大学国際関係学部、ジャワハルラル・ネルー大学言語・文学・文化学部、デリー大学、ピシュババラティ大学、プレジデンシー大学

バングラデシュ：ダッカ大学

(米州)

米国：アリゾナ州立大学、カリフォルニア大学アーバイン校、カリフォルニア大学サンタバーバラ校、ケース・ウェスタン・リザーブ大学、パデュー大学、ユタ大学

(欧州)

英国：イースト・アングリア大学

ウズベキスタン：タシケント国立東洋学大学

ロシア：サンクトペテルブルク大学、極東連邦総合大学

(中東・アフリカ)

イスラエル：エルサレム・ヘブライ大学

エジプト：カイロ大学

(2) 日本研究プロジェクト助成

25 か国・地域、37件

2. 北京日本学研究中心

(1) 招へい事業

北京外国語大学

訪日研究(修士第33期生)：15人

博士フェロー(第18期生)：3人

北京大学

訪日研修(博士第14期)：20人

(2) 派遣事業

北京外国語大学：7人

北京大学：9人

3. 日本研究フェロースhip

学者・研究者

長期：37人／短期：27人

博士論文執筆：44人

4. 日本研究ネットワーク強化

(1) 主催・共催

「第4回東アジア日本研究者協議会国際学術大会」

第2回 次世代日本研究者 協働研究ワークショップ事業

ロシア若手研究者育成

「中央アジア文化交流ミッション」フォローアップ調査

日本研究専門家講演会(パリ)

(2) 助成事業：22 か国、23件

5. 知的交流強化

(1) 主催・共催

日中知的交流強化事業

グループ招へい：2件、個人招へい：8件

フォローアップ招へい：1件

日独シンポジウム「東京とベルリン—ユニバーサルデザインのまちづくり」

中東・北アフリカグループ招へい：3 か国、7人

「都市間連携国際サミット 2019浜松」

(2) 知的交流会議助成：20件

6. 現代日本理解特別プログラム

(アジア・大洋州)

オーストラリア国立大学

(米州)*

イェール大学

ジョンズ・ホプキンス大学

インディアナ大学

(欧州)

ロンドン大学キングスカレッジ

INALCO (フランス国立東洋言語文化研究所)・

パリ・ディドロ(パリ第7)大学

7. 米国との知的・草の根交流*

(1) 主催事業

安倍フェロースhip／グローバルフォーラム

研究者：10人

ジャーナリスト：4人

日米知識人交流事業：2人(招へい1人／派遣1人)

日米草の根交流コーディネーター派遣(JOI)：

16人(新規5人／継続11人)

グラスルーツからの日米関係強化派遣(GEN-J)：

127人(招へい120人／派遣7人)

(2) 助成事業

企画参画助成：6件(新規2件／継続4件)

公募助成：16件(新規8件／継続8件)

ニューヨーク日米センター

小規模助成：18件(草の根交流6件／知的交流4件／教育6件／

日本庭園2件)

*日米センター所管

1. 日本語パートナーズ派遣事業

インドネシア：168人
タイ：127人
ベトナム：64人
マレーシア：49人
フィリピン：14人
ミャンマー：18人
カンボジア：1人
シンガポール：1人
ブルネイ：1人
ラオス：4人
中国：32人
台湾：36人
計515人／505校

【響きあうアジア 2019】「日本語パートナーズ派遣事業」シンポジウム・関連企画

日本語パートナーズ学習者招へい事業：10か国、50人
カウンターパート日本語教師訪日研修：4か国、80人*
タイ中等教育教員訪日スカラシップ：14人*

2. アジア・市民交流事業

混成アジア映画研究会

アジア映画研究会

「マッチフラッグプロジェクト 2019」

「HANDS! -Hope and Dreams Project-」

「シンガポールフェア」（陸前高田市）青少年交流事業

助成事業：25件

3. アジア・フェロウシップ：16件

4. アジア・リーダー交流

「...and Action! Asia -映画・映像専攻学生交流プログラム-」（報告書作成）

「ワーキングタイトル 上映企画・実践ワークショップ」（報告書作成）

舞台芸術プレゼンター招へい事業

アジア・文化人招へいプログラム

Norliza Rofli（マレーシア）

「アジア・リーダーシップ・フェロー・プログラム（ALFP）」講演会シリーズ

「日本・ASEAN メディア・フォーラム 2019」

「ウィンター・インスティテュート 2019」**

アジア研究学会（AAS）アジア大会参加者への旅費支援**

助成事業：4件**

5. アジア・文化創造協働事業

「Awakenings: Art in Society in Asia 1960s-1990s」（韓国・シンガポール）

メディアアート交流事業

（「アジアン・ミーティング・フェスティバル 2019」（AMF2019）、音楽プログラム「Imaginary Line」、展覧会「開かれた可能性——ノンリニアな未来の想像と創造」（シンガポール・東京）、「第4回メディアアート国際シンポジウム『メディア文化のオープンネス——協働、ネットワーク、文化交流に向けて』」）

アジア美術関連アーカイブ（カタログ・報告書 WEB アーカイブ）

国際研究フォーラム「アジアにおける障害者の芸術活動」（バンコク）

【響きあうアジア 2019】「呼吸する地図たち」（東京・チェンマイ）

「第32回 東京国際映画祭」をプラットフォームとした映画交流事業

（「CROSSCUT ASIA #06『ファンタスティック！東南アジア』」ほか）

「Visual Documentary Project 2019」

「Talents Tokyo 2019」

「アジアフォーカス・福岡国際映画祭2019」（リージョナル映画特集、プリランテ・メンドーサ監督マスタークラスほか）

「インドネシア&タイ 映画におけるフォークロアとファンタジー」映画上映

【響きあうアジア 2019】「東南アジア映画の巨匠たち」映画上映、トーク、シンポジウムほか

【響きあうアジア 2019】『「サタンジャワ」サイレント映画+立体音響コンサート』

【響きあうアジア 2019】アビチャッポン・ウィーラセタクン『フィーバー・ルーム』

【響きあうアジア 2019】「DANCE DANCE ASIA—Crossing the Movements 東京公演2019」・ハノイ & バンコクツアー 2019

【響きあうアジア 2019】『響きあうアジア 2019 ガラコンサート』

【響きあうアジア 2019】岡田利規 タイ国際共同制作『プラクター：憑依のポートレート』

【響きあうアジア 2019】「ASEAN-Japan Music Festival 2019 in VIETNAM —prayer for peace—」

【響きあうアジア 2019】シンポジウム「舞台芸術における国際協働をめぐって—見えないものを伝え、見られなくなるものを残す」

「国際舞台芸術ミーティング in 横浜 2020」（TPAM 2020）

劇団 SCOT との共催事業（インドネシア国際共同制作2作品『ディオニソス』『いのちの旅』）

平田オリザプロジェクト「東京ノート・インターナショナルバージョン」への協力

キラリ☆ふじみ共同制作 「新しいアジアの舞台芸術創造のためのプラットフォーム構築プロジェクト」（日本・フィリピン共同制作演劇『KIN-BALL キンボール』）

「フェスティバル/トーキョー 19『トランスフィールド from アジア』

「APAF- アジア舞台芸術人材育成部門2019」

【響きあうアジア 2019】サッカー交流事業「ASIAN ELEVEN」

サッカー国際親善試合「JapaFunCup」

サッカー国際親善試合「The Japan Foundation Bangkok Cup」

JFA 連携サッカー事業

指導者長期派遣：カンボジア、東ティモール、フィリピン、ブルネイ、ベトナム、ミャンマー

招へい：カンボジア（選手・指導者招へい）、マレーシア（選手招へい）、「インターナショナル・コーチング・コース」

Jリーグ連携サッカー事業

指導者短期派遣：インドネシア、カンボジア、タイ、フィリピン、ラオス

ASEAN サッカーリーグ関係者招へい

柔道交流事業「日アセアン JITA-KYOEI PROJECT」

「第6回 三陸国際芸術祭」

『三陸×アジア』ブックレット出版事業

【響きあうアジア 2019】「Earth Manual Project "Disaster and Design: For Saving Lives"（命を守るアジアの防災デザイン）」

「ダイバーシティをはぐくむ EYES プロジェクト」

「アジアにおけるソーシャル・イノベーション人材交流プログラム」（SOIL）

「日本軍政期インドネシア史料」展

「Innovative City Forum 2019」国際交流基金アジアセンターセッション「Reverse IDEA ～アジアのダイナミズムから『新たな座標軸』を探る～」

「東南アジア・ムスリム青年との対話（TAMU）」連続セミナー「イスラームへのアプローチ：宗教から考える文化と社会」

「アジアの価値観と民主主義2019」（モンゴル）

東南アジア近現代建築保存プロジェクト***

日本・アジア学生パッケージデザイン交流事業（ASPaC）***

助成事業：44件

*日本語事業グループ所管

**日本研究・知的交流部所管

***文化事業部所管

民間からの資金協力

国際交流基金は、企業、団体、個人等、広く民間からの資金協力による支援を受けて国際文化交流事業を実施しています。

ここでは、2019年度の民間からの資金協力について寄附金制度を中心に紹介するとともに、主に寄附金制度を通じて資金協力をいただいた方々や、その協力による支援を受けた事業を紹介します。

1. 資金協力の種類

(1) 一般寄附金

国際交流基金による国際文化交流事業の経費の財源として活用します。

① 一般寄附金制度

企業、団体、個人より、時期、金額とも任意で受け入れる寄附金です。2019年度に寄附金をいただいた方々は、次ページの「事業費への寄附者」、「民間出えん金寄附者」とおりです。

● 事業費への寄附

寄附金を受け入れた年度の事業経費として活用します。寄附者の希望により、実施事業の中から、寄附金を充当する事業を指定することも可能です。

● 基金(ファンド)への寄附(民間出えん金)

寄附金を基金(ファンド)に組み入れ、その運用利息を毎年度の事業費として恒久的に活用します。過去に受け入れた民間出えん金による2019年度の事業実施状況は、次ページの「民間出えん金による支援事業」とおりです。

② 法人会員制度(賛助会)

企業、団体等の法人より年会費として一定額の寄附金を受け入れ、受け入れた年度の事業経費として活用します。1口10万円で、普通会员(1～4口)と特別会員(5口以上)があります。会員には、催しの案内、「国際交流基金年報」の送付等、各種特典を提供しています。2019年度に支援をいただいた会員は次ページの「賛助会会員」とおりです。

(2) 特定寄附金

国内の法人や個人が国内外の国際文化交流事業を支援する場合に、特定公益増進法人である国際交流基金が、その支援資金を寄附金として受け入れ、対象事業への助成金として交付する制度です。本制度を利用することで、法人や個人は寄附金に対する税制上の優遇措置を受けることができます。

対象となる事業は、国際文化交流を目的とする人物交流、海外における日本研究や日本語教育、国際文化交流を目的とする公演・展示・セミナー等の催し等です。特定寄附金の受入れは、外部専門家で構成される審査委員会への諮問を経て決定します。2019年度の支援事業は次ページの「特定寄附金による支援事業」とおりです。

(3) その他

上記の寄附金のほか、協賛金、助成金等、さまざまな形で民間からの資金協力による支援をいただいております。2019年度の主な支援の例は、次ページの「寄附金以外の主な支援例」とおりです。

2. 寄附金に対する税制上の優遇措置

国際交流基金は法人税法施行令第77条及び所得税法施行令第217条により「公益の増進に著しく寄与する法人」(特定公益増進法人)に指定されており、上記の資金協力のうち、国内での寄附金については税制上の優遇措置の対象となります。

(1) 法人の場合

特定公益増進法人に対する寄附金の合計額、または、特別損金算入限度額のいずれか少ない金額が損金に算入されます。

(注1) 特定公益増進法人に対する寄附金のうち、損金に算入されなかった金額(特別損金算入限度額を超える部分の金額)は、通常の寄附金の額に含めます。

寄附金の損金算入限度額は次の算式によります。

● 特定公益増進法人に対する寄附金の損金算入限度額

(特別損金算入限度額)

(資本金等の額×当期の月数/12×0.375%+所得の金額×6.25%)
×1/2

● 通常の寄附金の損金算入限度額

(資本金等の額×当期の月数/12×0.25%+所得の金額×2.5%)
×1/4

(2) 個人の場合

所得の40%を上限として、寄附金の合計額から2,000円を差し引いた金額が所得控除の対象となります。相続財産からの寄附についても、税制上の優遇措置があります。

3. 2019年度寄附金額実績

	件数	金額
一般寄附金	47件	105,309,210円
賛助会	33件	6,850,000円
事業費への寄附	12件	98,439,210円
民間出えん金	2件	20,000円
特定寄附金	37件	3,014,578,437円 ^(注2)

(注2) うち、3,011,788,693円(2018年度より繰り越した特定寄附金39,499,952円含む)を18事業(次ページ「特定寄附金による支援事業」参照)に対する助成金として交付しました。残額(42,289,696円)は、6件の事業に対する助成金として2020年度に交付予定です。

(注3) 1972年の国際交流基金設立以来2019年度末までの累計で、一般寄附金として約30億4,802万円、特定寄附金として約709億5,779万円を受け入れています。

(注4) 寄附金以外の民間からの資金協力として、2019年度に総額約5,795万円の支援(協賛金、助成金等)をいただいております。

2019年度の寄附金等による支援者や支援事業一覧

事業費への寄附者 (()内は寄附対象事業、順不同、敬称略)

(株) プラビス・インターナショナル(日本・アジア学生パッケージデザイン交流)
日本たばこ産業(株)(ロシアの大学における日本語・日本研究支援)
(株) 木下グループ(「Japan 2019」公式企画「ジャパン・ナイト」における公演及び「TICAD 7 LIVE HEART FOR AFRICA」)
(株) ボンドクリエイティブ(日本・アジア学生パッケージデザイン交流)
(一社) 出版文化国際交流会(翻訳・出版交流事業)
東京瓦斯(株)(東南アジア日本語教育支援事業)
サン・インベストメント(株)(「第60回外国人による日本語弁論大会」)
全日本空輸(株)(「Japan 2019」公式企画「日本美術に見る動物の姿」展)
BlueRise Partners(株)、久米 真 ほか個人4人(事業費全般)

民間出せん金寄附者

個人2人

民間出せん金による支援事業(順不同、敬称略)

(寄附者の意向に基づき特別事業を設定し、事業名に寄附者の名を付する冠寄附の例)
高砂熱学工業・日本研究フェロシップ
(寄附者は高砂熱学工業株式会社)
渡辺健基金・日本研究フェロシップ
(寄附者は渡辺行信氏、米国研修中に事故で逝去された元外務省職員渡辺健氏のご遺族)

賛助会会員(2019年度末現在、50音順、敬称略)

(1) 特別会員

SMBC 日興証券(株) / 松竹(株) / (株) みずほ銀行 / (株) 三菱UFJ 銀行

(2) 普通会員

(公財) あすか財団 / (一財) 池坊華道会 / 出光興産(株) / (一財) NHKインターナショナル / カトーレック(株) / (株) 講談社 / (公財) 講道館 / (株) 国際サービス・エージェンシー / (学) 駒澤大学 / (一財) 今日庵 / (株) 資生堂 / (一財) 少林寺拳法連盟 / スターレーン航空サービス(株) / (一財) 全日本剣道連盟 / (株) 第一成和事務所 / ダイキン工業(株) / 大和証券(株) / 東京ビジネスサービス(株) / (株) 日本折紙協会 / (一社) 日本映画製作者連盟 / (一財) 日本国際協力センター / 野村證券(株) / (株) 日立製作所 / 富士ゼロックス(株) / (株) 凡人社 / (株) 三井住友銀行 / 三菱UFJモルガン・スタンレー証券(株) / 森ビル(株) / ほか法人1社

特定寄附金による支援事業 (()内は事業実施国、順不同)

アジア女子大学奨学金プログラム(バングラデシュ) / CWAJ 女性のための国際文化交流奨学金制度(日本、米国) / インディアナ大学ジャパンスカラシップ(米国) / 三笠宮記念財団募金活動(トルコ) / ミシガン大学ロー・スクール・フェロシップ・ファンド(米国) / 長島・大野・常松法律事務所: 日本法・文化プログラム(米国) / 柳井正イニシアティブ グローバル・ジャパン・ヒューマニティーズ・プロジェクト(米国) / LSH アジア奨学金(日本) / パルカン室内管弦楽団公演2019(日本) / 「四天王寺ワッソ2019」(日本) / 「ミュージック・フロム・ジャパン 45周年記念音楽祭」アーティスト・レジデンスV(米国) / 日韓交流おまつり2019 in Tokyo(日本) / 黒森歌舞伎ポーランド公演(ポーランド) / 「2020年とやま世界こども演劇祭 ~第4回とやま世界こども舞台芸術祭~」(日本) / 完全版『マハーバーラタ』愛の章 / 嵐の章(日本) / 「第79回国際法協会世界大会」(日本) / 「南砺市いなみ国際木彫刻キャンプ2019」(日本) / ポートランド日本庭園拡張計画(米国)

寄附金以外の主な支援例(順不同、敬称略)

(一財) 窓研究所(「第58回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展」日本館展示への協賛金)
(公財) 石橋財団(現代美術キュレーター等交流事業、日本美術リサーチフェロシップ及び「第17回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展」日本館展示への寄附助成)
(一社) 尚友倶楽部(ダナン外国語大学、フエ外国語大学及びハロン大学への日本語教材・購送、ベトナム若手研究者 日本語・日本文化訪日研修への助成)
(一財) アジア国際交流奨学財団(「日本語フェスティバル2019」への協賛金)
(公財) かめのり財団(「にほんご人フォーラム」への助成等)

財務諸表

令和元年度 決算報告書 (2019年4月1日～2020年3月31日)

(単位:円)

区別	文化芸術交流事業費				海外日本語事業費				海外日本研究・知的交流事業費			
	予算額	決算額	差額	備考	予算額	決算額	差額	備考	予算額	決算額	差額	備考
▼収入												
運営費交付金	2,960,479,000	2,960,479,000	0		6,003,077,000	6,003,077,000	0		1,083,534,000	1,083,534,000	0	
施設整備費補助金	0	0	0		0	17,499,240	17,499,240	※2	0	0	0	
運用収入	145,374,000	143,959,156	△1,414,844		0	7,593,755	7,593,755		729,072,000	586,384,934	△142,687,066	※4
寄附金収入	3,676,000	43,918,064	40,242,064		22,597,000	24,320,363	1,723,363		24,386,000	24,223,936	△162,064	
受託収入	512,000	0	△512,000		20,941,000	26,849,600	5,908,600		0	0	0	
アジア文化交流強化基金取崩収入	0	0	0		0	0	0		0	0	0	
その他収入	24,406,000	78,827,752	54,421,752		1,464,832,000	1,451,537,002	△13,294,998		55,117,000	39,584,823	△15,532,177	
前中期目標期間繰越積立金取崩収入	233,645,000	527,059,817	293,414,817	※1	0	0	0		0	0	0	
計	3,368,092,000	3,754,243,789	386,151,789		7,511,447,000	7,530,876,960	19,429,960		1,892,109,000	1,733,727,693	△158,381,307	
▼支出												
業務経費	3,369,291,000	2,949,226,669	420,064,331	※3	7,355,257,000	5,827,050,034	1,528,206,966	※3	1,791,274,000	1,977,649,802	△186,375,802	※5
施設整備費	0	0	0		0	17,499,240	△17,499,240	※2	0	0	0	
一般管理費	0	0	0		0	0	0		0	0	0	
うち人件費	0	0	0		0	0	0		0	0	0	
物件費	0	0	0		0	0	0		0	0	0	
予備費	0	0	0		0	0	0		0	0	0	
計	3,369,291,000	2,949,226,669	420,064,331		7,355,257,000	5,844,549,274	1,510,707,726		1,791,274,000	1,977,649,802	△186,375,802	

区別	調査研究・情報提供等事業費				アジア文化交流強化事業費				在外事業費			
	予算額	決算額	差額	備考	予算額	決算額	差額	備考	予算額	決算額	差額	備考
▼収入												
運営費交付金	661,671,000	661,671,000	0		0	0	0		3,998,407,000	3,998,407,000	0	
施設整備費補助金	0	0	0		0	0	0		0	0	0	
運用収入	0	16,815	16,815		0	0	0		0	104,544,060	104,544,060	※4
寄附金収入	928,000	9,013	△918,987		0	11,000,000	11,000,000		3,427,000	454,112	△2,972,888	
受託収入	0	0	0		0	0	0		0	0	0	
アジア文化交流強化基金取崩収入	0	0	0		3,895,745,000	3,248,078,947	△647,666,053	※6	0	0	0	
その他収入	649,000	514,092	△134,908		0	0	0		88,881,000	48,823,736	△40,057,264	
前中期目標期間繰越積立金取崩収入	0	0	0		0	0	0		0	0	0	
計	663,248,000	662,210,920	△1,037,080		3,895,745,000	3,259,078,947	△636,666,053		4,090,715,000	4,152,228,908	61,513,908	
▼支出												
業務経費	661,671,000	602,809,178	58,861,822	※6	3,895,745,000	3,259,078,947	636,666,053	※6	4,102,920,000	4,052,704,688	50,215,312	
施設整備費	0	0	0		0	0	0		0	0	0	
一般管理費	0	0	0		0	0	0		0	0	0	
うち人件費	0	0	0		0	0	0		0	0	0	
物件費	0	0	0		0	0	0		0	0	0	
予備費	0	0	0		0	0	0		0	0	0	
計	661,671,000	602,809,178	58,861,822		3,895,745,000	3,259,078,947	636,666,053		4,102,920,000	4,052,704,688	50,215,312	

区別	文化交流施設等協力事業費				法人共通				合計			
	予算額	決算額	差額	備考	予算額	決算額	差額	備考	予算額	決算額	差額	備考
▼収入												
運営費交付金	0	0	0		1,753,438,000	1,753,438,000	0		16,460,606,000	16,460,606,000	0	
施設整備費補助金	0	0	0		0	0	0		0	17,499,240	17,499,240	
運用収入	0	342,760	342,760		11,000,000	24,760,133	13,760,133		885,446,000	867,601,613	△17,844,387	
寄附金収入	269,763,000	3,014,762,162	2,744,999,162	※7	677,000	1,179,997	502,997		325,454,000	3,119,867,647	2,794,413,647	
受託収入	0	0	0		0	0	0		21,453,000	26,849,600	5,396,600	
アジア文化交流強化基金取崩収入	0	0	0		0	0	0		3,895,745,000	3,248,078,947	△647,666,053	
その他収入	0	0	0		9,832,000	3,498,130	△6,333,870		1,643,717,000	1,622,785,535	△20,931,465	
前中期目標期間繰越積立金取崩収入	0	0	0		0	0	0		233,645,000	527,059,817	293,414,817	
計	269,763,000	3,015,104,922	2,745,341,922		1,774,947,000	1,782,876,260	7,929,260		23,466,066,000	25,890,348,399	2,424,282,399	
▼支出												
業務経費	277,606,000	3,022,587,197	△2,744,981,197	※7	0	0	0		21,453,764,000	21,691,106,515	△237,342,515	
施設整備費	0	0	0		0	0	0		0	17,499,240	△17,499,240	
一般管理費	0	0	0		2,453,848,000	2,161,260,513	292,587,487		2,453,848,000	2,161,260,513	292,587,487	
うち人件費	0	0	0		549,794,000	588,620,832	△38,826,832		549,794,000	588,620,832	△38,826,832	
物件費	0	0	0		1,549,719,000	1,572,639,681	△22,920,681		1,549,719,000	1,572,639,681	△22,920,681	
予備費	0	0	0		354,335,000	0	354,335,000		354,335,000	0	354,335,000	
計	277,606,000	3,022,587,197	△2,744,981,197		2,453,848,000	2,161,260,513	292,587,487		23,907,612,000	23,869,866,268	37,745,732	

※1 一部事業の追加・拡大等による支出増等

※2 平成30年度補正予算として交付を決定された施設整備費補助金が精算払いされたため

※3 一部事業の実施が翌年度以降となったため等

※4 運用収入を財源とする日米センター事業経費の一部を在外事業費として支出したため等

※5 収入予算外である平成30年度からの繰越予算を充当した支出があったため等

※6 一部事業の中止・縮小等による支出減等

※7 特定寄附金の受け入れ、及びその見合い支出が増加したため等

貸借対照表 (2020年3月31日)

(単位：円)

資産の部		
I 流動資産		
現金及び預金	15,198,765,663	
有価証券	8,799,871,867	
前払金	204,941,812	
前払費用	130,890,959	
未収収益	168,934,683	
未収金	766,622,421	
賞与引当金見返(注)	164,804,078	
その他の流動資産	54,379,761	
流動資産合計		25,489,211,244
II 固定資産		
1 有形固定資産		
建物	13,529,339,850	
減価償却累計額	△ 6,629,894,593	6,899,445,257
構築物	312,156,911	
減価償却累計額	△ 297,165,948	14,990,963
機械装置	57,719,952	
減価償却累計額	△ 24,587,300	33,132,652
車両運搬具	134,254,904	
減価償却累計額	△ 84,950,586	49,304,318
工具器具備品	1,429,303,719	
減価償却累計額	△ 1,119,405,467	309,898,252
美術品	562,949,588	
減価償却累計額	△ 24,361,193	538,588,395
土地		63,515,000
建設仮勘定		179,245,617
有形固定資産合計		8,088,120,454
2 無形固定資産		
ソフトウェア		317,175,115
電話加入権		441,000
無形固定資産合計		317,616,115
3 投資その他の資産		
投資有価証券		49,463,942,007
長期預金		1,700,000,000
敷金保証金		1,032,892,828
退職給付引当金見返(注)		2,763,299,709
投資その他の資産合計		54,960,134,544
固定資産合計		63,365,871,113
資産合計		88,855,082,357
負債の部		
I 流動負債		
運営費交付金債務(注)		7,255,026,026
預り補助金等(注)		2,347,721,741
預り寄附金(注)		95,940,287
未払金		974,728,968
前受金		12,601,529
預り金		18,771,736
前受収益		8,220,559
リース債務		2,179,174
引当金		
賞与引当金	180,780,475	180,780,475
資産除去債務		109,670,000
流動負債合計		11,005,640,495
II 固定負債		
資産見返負債(注)		
資産見返運営費交付金	1,388,512,674	
資産見返補助金等	3,049,238	
資産見返寄附金	2,543,156	
建設仮勘定見返運営費交付金	1,045,617	1,395,150,685
引当金		
退職給付引当金		2,763,299,709
資産除去債務		21,844,886
固定負債合計		4,180,295,280
負債合計		15,185,935,775
純資産の部		
I 資本金		
政府出資金		77,729,095,177
資本金合計		77,729,095,177
II 資本剰余金		
資本剰余金		535,143,769
その他行政コスト累計額(注)		△ 7,180,290,552
減価償却相当累計額(△)		△ 6,483,133,301
減損損失相当累計額(△)		△ 126,000
利息費用相当累計額(△)		△ 5,384,445
除売却差額相当累計額(△)		△ 691,646,806
民間出えん金(注)		908,026,787
資本剰余金合計		△ 5,737,119,996
III 利益剰余金		
積立金		1,218,164,198
前中期目標期間繰越積立金(注)		132,630,684
当期末処分利益		311,164,876
(うち当期総利益)		311,164,876
利益剰余金合計		1,661,959,758
IV 評価・換算差額等		
繰延ヘッジ損益		15,211,643
評価・換算差額等合計		15,211,643
純資産合計		73,669,146,582
負債純資産合計		88,855,082,357

(注) これらは、独立行政法人固有の会計処理に伴う勘定科目です。

損益計算書 (2019年4月1日～2020年3月31日)

(単位：円)

経常費用		
文化芸術交流事業費		2,926,775,050
日本語教育事業費		5,915,569,096
日本研究・知的交流事業費		1,978,137,595
調査研究・情報提供等事業費		551,780,420
アジア文化交流強化事業費		3,258,438,260
在外事業費		4,029,886,379
文化交流施設等協力事業費		3,022,587,197
一般管理費		1,650,412,724
財務費用		352,969
雑損		404,134,697
経常費用合計		23,738,074,387
経常収益		
運営費交付金収益(注)	13,797,626,552	
運用収益	857,383,526	
受託収入	25,079,990	
補助金等収益(注)	3,243,434,028	
施設費収益(注)	1,299,240	
寄附金収益(注)		
寄附金収益	83,034,750	
特定寄附金収益	3,011,788,693	3,094,823,443
資産見返戻入(注)		
資産見返運営費交付金戻入	303,206,878	
資産見返補助金等戻入	4,004,232	
資産見返寄附金戻入	997,800	308,208,910
賞与引当金見返に係る収益(注)		164,804,078
退職給付引当金見返に係る収益(注)		248,193,285
財務収益		
受取利息	397,059	397,059
雑益		
日本語能力試験受験料等収益	1,372,914,522	
その他の雑益	408,217,120	1,781,131,642
経常収益合計		23,522,381,753
経常損失		215,692,634
臨時損失		
固定資産除却損	2,167,856	
減損損失	9,344,230	
会計基準改訂に伴う賞与引当金繰入(注)	172,850,558	
会計基準改訂に伴う退職給付費用(注)	2,704,538,975	2,888,901,619
臨時利益		
資産見返運営費交付金戻入(注)	11,079,270	
資産見返補助金等戻入(注)	93,915	
固定資産売却益	136,594	
賞与引当金見返に係る収益(注)	172,850,558	
退職給付引当金見返に係る収益(注)	2,704,538,975	2,888,699,312
当期純損失		215,894,941
前中期目標期間繰越積立金取崩額(注)		527,059,817
当期総利益		311,164,876

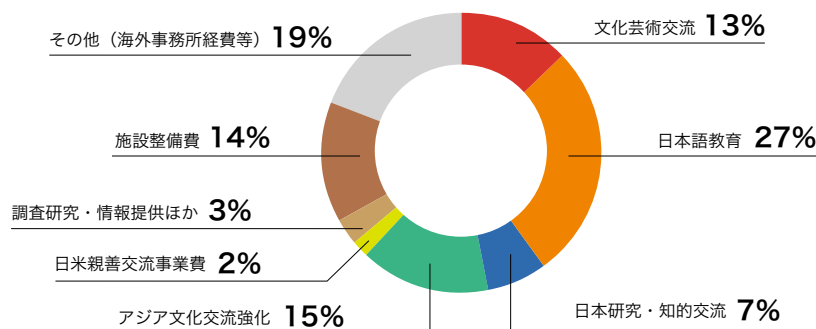
(注) これらは、独立行政法人固有の会計処理に伴う勘定科目です。

利益の処分に関する書類 (2020年7月20日)

(単位：円)

I 当期末処分利益		311,164,876
当期総利益	311,164,876	
II 利益処分額		
積立金		311,164,876
		311,164,876

2019年度事業分野別支出構成比



※一般管理費は除く。

世界の 拠点紹介



海外事務所

- 1 イタリア ローマ日本文化会館**
The Japan Cultural Institute in Rome
URL: <https://www.jfroma.it/>
(イタリア・日本語)
- 2 ドイツ ケルン日本文化会館**
The Japan Cultural Institute in Cologne
URL: <https://www.jki.de/>
(ドイツ語・日本語)
- 3 フランス パリ日本文化会館**
The Japan Cultural Institute in Paris
URL: <https://www.mcjp.fr/>
(フランス語・日本語)
- 4 韓国 ソウル日本文化センター**
The Japan Foundation, Seoul
URL: <https://www.jpf.or.kr/>
(韓国語・日本語)
- 5 中国 北京日本文化センター**
The Japan Foundation, Beijing
URL: <https://www.jpfbj.cn/>
(中国語)
- 6 インドネシア ジャカルタ日本文化センター**
The Japan Foundation, Jakarta
URL: <https://www.jpf.or.id/>
(インドネシア語・英語・日本語)
- 7 タイ バンコク日本文化センター**
The Japan Foundation, Bangkok
URL: <https://www.jfbkk.or.th/>
(タイ語・日本語・英語)
- 8 フィリピン マニラ日本文化センター**
The Japan Foundation, Manila
URL: <https://www.jfmo.org.ph/>
(英語)
- 9 マレーシア クアラルンプール日本文化センター**
The Japan Foundation, Kuala Lumpur
URL: <https://www.jfk.org.my/>
(英語)
- 10 ミャンマー ヤンゴン日本文化センター**
The Japan Foundation, Yangon
URL: <https://yg.jpf.go.jp>
(ミャンマー語・英語)
- 11 インド ニューデリー日本文化センター**
The Japan Foundation, New Delhi
URL: <https://www.jfindia.org.in/>
(英語)
- 12 オーストラリア シドニー日本文化センター**
The Japan Foundation, Sydney
URL: <https://www.jpf.org.au/>
(英語)
- 13 カナダ トロント日本文化センター**
The Japan Foundation, Toronto
URL: <https://www.jftor.org/>
(英語)
- 14 米国 ニューヨーク日本文化センター
ニューヨーク日米センター**
The Japan Foundation, New York
URL: <https://www.jfny.org/>
(英語)
- 15 米国 ロサンゼルス日本文化センター**
The Japan Foundation, Los Angeles
URL: <https://www.jflac.org/>
(英語)
- 16 メキシコ メキシコ日本文化センター**
The Japan Foundation, Mexico
URL: <https://www.fjmex.org/>
(スペイン語)
- 17 ブラジル サンパウロ日本文化センター**
The Japan Foundation, São Paulo
URL: <https://fjps.org.br/>
(ポルトガル語)
- 18 英国 ロンドン日本文化センター**
The Japan Foundation, London
URL: <https://www.jpf.org.uk/>
(英語)
- 19 スペイン マドリード日本文化センター**
The Japan Foundation, Madrid
URL: <https://www.fundacionjapon.es/>
(スペイン語・日本語)
- 20 ハンガリー ブダペスト日本文化センター**
The Japan Foundation, Budapest
URL: <https://www.japanalapitvany.hu/>
(ハンガリー語・日本語・英語)
- 21 ロシア 全ロシア国立外国文献図書館
「国際交流基金」文化事業部
(モスクワ日本文化センター)**
The Japanese Culture Department
"Japan Foundation" of the All-Russia State
Library for Foreign Literature
URL: <https://www.jpfmw.ru/>
(ロシア語・日本語)
- 22 エジプト カイロ日本文化センター**
The Japan Foundation, Cairo
- 23 ベトナム ベトナム日本文化交流センター**
The Japan Foundation Center for
Cultural Exchange in Vietnam
URL: <https://jpf.org.vn/>
(ベトナム語・日本語)
- 24 カンボジア アジアセンタープノンペン連絡事務所**
The Japan Foundation Asia Center,
Phnom Penh Liaison Office
URL: <https://jfpnh.org/>
(クメール語・日本語・英語)
- 25 ラオス アジアセンタービエンチャン連絡事務所**
The Japan Foundation Asia Center,
Vientiane Liaison Office
URL: <https://jfacvt.la/>
(ラオス語・英語)

国内附属機関・支部

日本語国際センター

〒330-0074 埼玉県さいたま市浦和区北浦和5-6-36

TEL. 048-834-1180 FAX. 048-834-1170

URL: <https://www.jpf.go.jp/j/urawa/>

■ 図書館

TEL: 048-834-1185 FAX: 048-830-1588

URL: https://www.jpf.go.jp/j/urawa/j_library/j_library.html

関西国際センター

〒598-0093 大阪府泉南郡田尻町りんくうポート
北3-14

TEL: 072-490-2600 (代表) FAX: 072-490-2800

URL: <https://kansai.jpf.go.jp>

■ 図書館

TEL: 072-490-2605 FAX: 072-490-2805

URL: <https://kansai.jpf.go.jp/ja/library/>

京都支部

〒606-8436 京都市左京区粟田口鳥居町 2-1

京都市国際交流会館3階

TEL: 075-762-1136 FAX: 075-762-1137

URL: <https://www.jpf.go.jp/j/world/kyoto.html>

諮問委員会等 (2019年度)

以下の方々に、委員としてご協力いただいています。
(50音・アルファベット順、敬称略、所属・肩書きは2019年度のもの)

国際交流基金の運営に関する諮問委員会

(2019年4月30日をもって諮問委員会の委嘱を終了)

- 五百旗頭 真**
兵庫県立大学理事長／ひょうご震災記念21世紀研究機構理事長
- 池内 恵**
東京大学先端科学技術研究センター教授
- 川島 真**
東京大学大学院総合文化研究科教授
- 久保 文明**
東京大学大学院法政学政治学研究所教授
- 迫田 久美子**
広島大学副理事・森戸国際高等教育学院特任教授
- 建畠 哲**
多摩美術大学学長／埼玉県立近代美術館館長
- 千野 境子**
産経新聞客員論説委員
- 永井 多恵子**
せたがや文化財団理事長／国際演劇協会日本センター会長
- 細谷 雄一**
慶應義塾大学法学部教授
- 宮本 亜門**
演出家
- 渡辺 靖**
慶應義塾大学環境情報学部教授

日本研究米諮問委員会 (American Advisory Committee for Japanese Studies)

- William Bodiford**
カリフォルニア大学ロサンゼルス校 宗教学
- Michael Bourdachs**
シカゴ大学 文学
- Lee Branstetter**
カーネギーメロン大学 経済学
- Julie Nelson Davis**
ペンシルバニア大学 美術史
- Alisa Freedman**
オレゴン大学 近代日本文学
- Andrew Gordon**
ハーバード大学 歴史学
- Eiko Ikegami**
ニュースクール大学 社会学
- R. Keller Kimbrough**
コロラド大学ボルダー校 文学
- Patricia Maclachlan**
テキサス大学オースティン校 政治学
- Laura Miller**
ミズーリ大学セントルイス校 人類学
- Mari Noda**
オハイオ州立大学 言語学／言語教育学
- Morgan Pitelka**
ノースカロライナ大学チャペルヒル校 歴史学
- Steven Vogel**
カリフォルニア大学バークレイ校 政治学
- Kären Wigen**
スタンフォード大学 地理学／歴史学
- Christine Yano**
ハワイ大学マノア校 人類学／カルチュラル・スタディーズ

パリ日本文化会館運営審議会

- フランス側委員
- Louis Schweitzer**
日仏パートナーシップ欧州・外務大臣特別代表
- Jean-Louis Beffa**
サンゴバン名誉会長
- Augustin Berque**
フランス国立社会科学高等研究院退任教授
- Philippe Faure**
元駐日フランス大使
- André Larqué**
シャトレ劇場名誉理事長
- Jean Maheu**
パリ市立劇場名誉理事長
- Jean-Robert Pitte**
フランス地理学会会長

- Christian Sautter**
元経済・財政・産業大臣
- Diane de Selliers**
ディアヌ・ド・セリエ出版社長

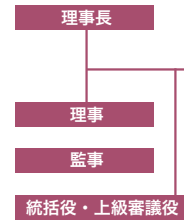
- 日本側委員
- 松浦 晃一郎**
元ユネスコ事務局長
- 伊東 順二**
美術評論家／東京藝術大学社会連携センター特任教授
- 萩野 アンナ**
作家／慶應義塾大学文学部教授
- 柏倉 康夫**
放送大学名誉教授
- 大八木 成男**
帝人株式会社相談役
- 酒井 忠康**
世田谷美術館館長
- 辻原 登**
作家／神奈川近代文学館長
- 西垣 通**
東京大学名誉教授／東京経済大学教授
- 早間 玲子**
建築家
- 堀場 厚**
株式会社堀場製作所代表取締役会長兼グループCEO

国際交流基金アジアセンター事業諮問委員会

- 日本側委員
- 石井 恵理子**
東京女子大学教授、日本語教育学会会長
- 井上 弘**
(株)TBSテレビ相談役
- 猪子 寿之**
チームラボ(株)代表取締役
- 加藤 雅也**
俳優
- コシノ ジュンコ**
デザイナー
- 迫本 淳一**
松竹(株)代表取締役社長
- 知花 くらら**
モデル／国連世界食糧計画(WFP)日本大使
- 鳥井 信吾**
サントリーホールディングス(株)代表取締役副会長
- 長谷川 三千子**
埼玉大学名誉教授
- 宮廻 正明**
東京藝術大学名誉教授／日本画家
- 山内 昌之(座長)**
東京大学名誉教授

- ASEAN側委員
- Dato Paduka Hamdillah H A Wahab**
(ブルネイ)ブルネイ日本友好協会(BJFA)会長
- Pou Sothirak**
(カンボジア)国立カンボジア平和協力研究所専務理事／カンボジア王国政府顧問
- Riri Riza**
(インドネシア)映画監督
- Phonethepvixay Saythilath**
(ラオス)歌手／音楽会社経営
- Datuk Lat**
(マレーシア)漫画家
- Lahpai Seng Raw**
(ミャンマー)メッタ開発財団創始者・前代表
- Ambeth R. Ocampo**
(フィリピン)アテネオ・デ・マニラ大学歴史学科准教授
- Goh Ching Lee**
(シンガポール)カルチャーリンク創設者・芸術監督
- Kitti Prasirtsuk**
(タイ)タマサート大学副学長(国際担当)
- Nguyen Van Chinh**
(ベトナム)ハノイ国家大学人文社会科学大学人類学部学部長 准教授

組織図



(2020年10月1日現在)

本部	
総務部	総務課 情報公開室 安全管理室 人事課 給与・人事評価室 拠点管理課 パリ日本文化会館業務室 システム管理課
経理部	財務課 財務監理室 会計課
企画部	総合戦略課 事業戦略課
文化事業グループ	
文化事業部	企画調整チーム 舞台芸術チーム 美術チーム
映像事業部	映画チーム テレビ放送チーム
日中交流センター	
日本語事業グループ	
日本語第1事業部	企画調整チーム 事業第1チーム 事業第2チーム
日本語第2事業部	企画開発チーム
日本語試験センター	試験運営チーム 試験制作チーム
日本研究・知的交流事業グループ	
日本研究・知的交流部	企画調整・米州チーム アジア・大洋州チーム 欧州・中東・アフリカチーム
日米センター	
青少年交流室	
アジアセンター	企画調整チーム 日本語事業第1チーム 日本語事業第2チーム 文化事業第1チーム 文化事業第2チーム
コミュニケーションセンター	
監査室	
附属機関	
日本語事業グループ	
日本語国際センター	教師研修チーム 教材開発チーム
関西国際センター	教育事業チーム メディア開発チーム
支部	
京都支部	
海外事務所	
ローマ日本文化会館 ケルン日本文化会館 パリ日本文化会館 ソウル日本文化センター 北京日本文化センター ジャカルタ日本文化センター バンコク日本文化センター マニラ日本文化センター クアラルンプール日本文化センター ヤンゴン日本文化センター ニューデリー日本文化センター シドニー日本文化センター トロント日本文化センター ニューヨーク日本文化センター ロサンゼルス日本文化センター メキシコ日本文化センター サンパウロ日本文化センター ロンドン日本文化センター マドリッド日本文化センター ブダペスト日本文化センター モスクワ日本文化センター カイロ日本文化センター ベトナム日本文化交流センター(ハノイ) アジアセンター プノンペン連絡事務所 アジアセンター ビエンチャン連絡事務所	

ご案内

ウェブサイト/ソーシャルメディア

国際交流基金の事業、イベント等の最新情報、公募プログラム申請情報、便利な日本語教材、過去に行った調査報告、海外事務所のウェブサイトへのリンク等、さまざまな情報を国際交流基金ウェブサイト上で発信しています。

■国際交流基金ウェブサイト

<https://www.jpf.go.jp/>



国際交流基金公式ソーシャルメディア

公式 Facebook



<https://www.facebook.com/TheJapanFoundation>

公式 Twitter



<https://twitter.com/japanfoundation>

ウェブマガジン

■をちこち Magazine

<https://www.wochikochi.jp/>



国際交流基金ライブラリー (本部オフィス内)

<https://www.jpf.go.jp/j/about/jfic/lib/index.html>

公式 Facebook



<https://www.facebook.com/JFICLibrary>

事業別ウェブサイト

【文化芸術交流】

[舞台芸術情報 \[Performing Arts Network Japan\]](#)

[翻訳推薦著作リスト \[Worth Sharing\]](#)

[日本の出版物に関する書誌情報誌 \[Japanese Book News\] \(英語\)](#)

[日本文学翻訳書誌検索](#)

[日本映画データベース](#)

【日中交流センター】

[心连心ウェブサイト](#)



【日本語教育】

[海外日本語教育機関調査](#)

[日本語教育機関検索](#)

[日本語教育国・地域別情報](#)

[\[国際交流基金日本語教育紀要\]](#)

[日本語能力試験 \(JLPT\)](#)



[国際交流基金日本語基礎テスト \(JFT-Basic\)](#)



【日本語教師支援】

[\[世界で日本語を教えよう!\]](#)

[\[JF 日本語教育スタンダード\]](#)

[\[みんなの Can-do サイト\]](#)

[\[みんなの教材サイト\]](#)

[\[日本語教育通信\]](#)

【日本語学習者支援 (e ラーニング)】

[\[JF にほんご e ラーニング みなと\]](#)

[\[ひろがる もっといろんな日本と日本語\]](#)

[\[NIHONGO e な\]](#)

[\[日本語でケアナビ\]](#)

[\[アニメ・マンガの日本語\]](#)

[\[エリンが挑戦! にほんごできます。\]コンテンツライブラリー](#)

[\[エリンと挑戦! にほんごテスト\]](#)

[\[いろいろ 生活の日本語\]](#)

[\[まるごと 日本のことばと文化\]](#)

[\[まるごと+ \(まるごとプラス\)\]](#)

[\[まるごとのことば\]](#)

[HIRAGANA/KATAKANA Memory Hint](#)

[KANJI Memory Hint 1,2&3](#)

【日本語専門家の海外派遣に関する動画】

[日本語で世界をつなぐ ~国際交流基金 日本語専門家~](#)

[日本語で世界をつなぐ ~国際交流基金 日本語専門家~ Short Ver.](#)

[未来につながる夢への一歩 ~国際交流基金 日本語指導助手~](#)

[未来につながる夢への一歩 ~国際交流基金 日本語指導助手~ Short Ver.](#)

[日本語専門家等 世界の各地からメッセージ](#)

【日米センター】



[日米センター](#)

[\[安倍フェロシップ・プログラム\]](#)

[\[日米草の根交流コーディネーター派遣 \(JOI\)\]プログラム](#)

[日米知識人交流事業](#)

[日米文化教育交流会議 \(CULCON\)](#)

【アジアセンター】

[アジアセンター公式ウェブサイト](#)



[アジアセンター公式 facebook](#)

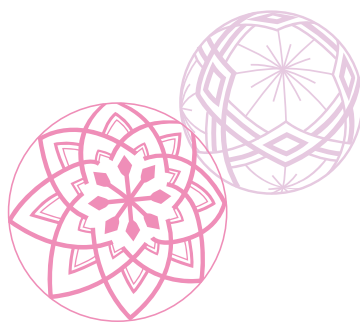


[アジアセンター公式 Twitter](#)



[日本語パートナーズ派遣事業 \(公式 Facebook\)](#)

国際交流基金 JF 
JAPAN FOUNDATION



国際交流基金 令和元（2019）年度年報

2020年12月発行

編著・発行／独立行政法人国際交流基金 コミュニケーションセンター

〒160-0004 東京都新宿区四谷1-6-4 TEL.03-5369-6075 FAX.03-5369-6044

編集・制作／株式会社エフピーアイ・コミュニケーションズ